

Oxford Reading Tree Level 5 Stories

- ① The Magic Key [273 語]
- ② Pirate Adventure [330 語]
- ③ The Dragon Tree [294 語]
- ④ Gran [309 語]
- ⑤ Castle Adventure [306 語]
- ⑥ Village in the Snow [329 語]

1. Magic Key 「マジックキー」 (273 語)

レベル 5 の一冊目では、ファンタジーの世界につれていってくれる「マジックキー」が登場します。子どもたちをどこにつれていってくれるのでしょうか。マジックキーはどのように働くのでしょうか。

	1. The Magic Key	マジックキー
1	The box was by Chip's bed. Something was glowing inside it.	箱はチップのベッドのわきにありました。 何かが中で光っていました。
2	Chip looked at the box. "It's magic," he said.	チップは箱を見ると「魔法だ」と言いました。
3	Chip ran into Biff's room. "Biff," he called. "Look at the box."	チップはビフの部屋へと走っていきます。 「ビフ」チップが言いました。 「箱を見て」。
4	Biff and Chip looked at the box. Something was glowing inside it.	ビフとチップが箱をみました。 何かが中で光っています。
5	They opened the box. They looked inside. "It's magic," they said.	ビフとチップは箱を開けました。 中を見ました。 「魔法だ」ふたりは言いました。
6	A key was in the box. The key was glowing.	かぎが中に入っていました。 かぎは光っています。
7	"It's a magic key," said Biff.	「魔法のかぎね」ビフが言いました。

	She picked up the key and the magic began.	ビフがかぎを取り出すと、魔法が働きはじめました。
8	Biff and Chip got smaller and smaller and smaller.	ビフとチップはちっちゃく、ちっちゃく、ちっちゃくなっていきました。
9	“Oh help!” said Biff. “It’s magic,” said Chip.	「助けて！」ビフが言いました。 「魔法だ」チップが言いました。
10	Biff and Chip looked at the room. Everything looked big.	ビフとチップは部屋をながめました。 すべて大きく見えます。
11	“Look at my big slippers,” said Biff. “Everything looks big.”	「わたしの大きなスリッパを見てよ」ビフが言いました。「なにもかも大きく見えるわ」。
12	Chip picked up a pencil. “Look at this big pencil,” he said.	チップがえんぴつを持ち上げました。 「この大きいえんぴつをみてよ」チップが言いました。
13	Biff picked up a pin. “Look at this big pin,” she said.	ビフはピンを取りました。 「この大きいピンを見てよ」ビフは言いました。
14	They looked at the house. It looked like a big house.	ビフとチップは家を見ました。 大きな家のようにです。
15	The windows were glowing. “It’s magic,” said Chip.	窓が光っていました。 「魔法だ」チップが言いました。
16	Biff and Chip ran to the house. They looked in the window.	ビフとチップが家にかげよりました。 窓から見てみました。
17	Biff went to the door. She pushed and pushed, but she couldn’t get in.	ビフがドアに向かいます。 押しても押しても中に入れません。

18	They went to the window. Chip pulled and pulled, but he couldn't get in.	窓に行ってみました。 チップがひっぱってもひっぱっても中に入 れません。
19	Something was coming. Chip picked up the pin. "Oh help!" he said.	何かが近づいてきます。 チップがピンを向けます。 「あー助けて！」チップが言いました。
20	It was a little mouse. Biff and Chip looked at the mouse. The mouse ran away.	それはちっちゃなネズミでした。 ビフとチップはネズミを見ました。 ネズミは逃げていきました。
21	Something was glowing. It was the magic key. Biff picked it up.	何かが光っています。 マジックキーです。 ビフが拾い上げました。
22	Biff and Chip got bigger and bigger and bigger.	ビフとチップは大きく、大きく、大きくなって いきます。
23	"Oh no!" said Biff. "Oh help!" said Chip. "It's the magic," they said.	「あらやだ！」ビフが言いました。 「助けて！」チップが言いました。 「魔法だったね」ふたりは言いました。
24	The magic was over. "What an adventure!" said Biff and Chip.	魔法はとけました。 「なんていう冒険なんだ！」ビフとチップは 言いました。

語句の解説

p.1 by のそばに、の近くに something 何か glow (ing) 輝く inside 中・内側・内部
p.2 magic 魔法・手品 get ~になる・を得る p.7 began (begin の過去形) はじまった
p.10 everything すべて・何もかも p.17 but しかし
couldn't =(could not の省略形) することができなかった p.24 over 終わって

読むポイント

マジックキーがレベル 5 で登場すると、現実の世界と離れた世界に冒険ができるようになります。それぞれの本ではどのように魔法がかかっていくのでしょうか。変化する瞬間をとらえていきましょう。

英語ではいいかえがなされます。たとえば1ページ2文目の Something was glowing inside it. の it は1文目の the box の事をさします。このように、it, he, she, they など言いかえたものが出てきた時には、すぐにそれが何のことかを考えておくと話がよくわかります。言い換えたものはさほど離れた場所には出てきていません。すぐ前の文章から探し出すように習慣づけていきましょう。

Rhyming Words

1. CD を注意深く聞いていると、同じ音が共通で入っている異なる単語があります。これらは韻をふんでいます。韻は英語で rhyme (ライム) といいます。
2. Listen to the CD carefully and find the rhyming words. 「CD を注意深く聞いて韻をふんでいることばをみつけましょう」。
3. p.14 house と p.20 mouse

2. Pirate Adventure 「海賊の冒険」(330 語)

表紙には海賊船に向かうボートがうつっています。子どもたちは海賊につかまってしまったのでしょうか。表紙を見てお話の展開を想像してみましょう。

	2. Pirate Adventure	海賊の冒険
1	Biff was looking at a book. The book was about pirates. “I don’t like pirates,” she said.	ビフが本を見ていました。 本は海賊についてです。 「海賊は好きじゃないわ」ビフが言いました。
2	Wilf and Wilma came to play. They went to Biff’s room.	ウィルフとウィルマが遊びにきました。 ビフの部屋に行きました。
3	They looked at the little house. “It’s a magic house,” said Biff. “Don’t be silly,” said Wilma	子どもたちは小さな家を見ました。 「マジックハウスだわ」ビフが言いました。 「おかしいと言わないで」ウィルマが言いま
4	They looked at the key. “It’s a magic key,” said Chip. “Don’t be silly,” said Wilf.	子どもたちは鍵を見ました。 「マジックキーだよ」チップが言いました。 「ばかなこといわないで」ウィルフが言いま
5	The key began to glow. The magic was working. “Oh help!” said Wilma.	かぎが光りはじめました。 魔法がかかっています。 「助けて」ウィルフが言いました。
6	The magic was working. The children got smaller and smaller and smaller.	魔法がかかってきました。 子どもたちはどんどん小さく小さく小さくなっ

7	<p>"Oh no!" said Wilf.</p> <p>"Oh help!" said Wilma.</p> <p>"We don't like this," they said.</p>	<p>「わ、いやだ」ウィルフが言いました。</p> <p>「助けて！」ウィルマが言いました。</p> <p>「これはいやだ」二人は言いました。</p>
8	<p>They looked at the house.</p> <p>The windows were glowing.</p> <p>Biff went to the door.</p>	<p>みんなは家をのぞきます。</p> <p>窓が光っています。</p> <p>ビフがドアの所にいきました。</p>
9	<p>She put the key in the lock.</p> <p>She opened the door.</p>	<p>ビフはかぎを鍵穴に差込みます。</p> <p>ビフはドアを開けました。</p>
10	<p>The children went inside the house. "It's a magic house," they said.</p>	<p>子どもたちは家の中にはいました。</p> <p>「魔法の家だね」子どもたちは言いました。</p>
11	<p>"Look at the sand," said Biff.</p> <p>"Look at the sea," said Chip.</p> <p>"Come on," they said.</p>	<p>「砂浜を見て」ビフが言いました。</p> <p>「海を見て」チップが言いました。</p> <p>「さあ、行こう」子どもたちが言いました。</p>
12	<p>They ran to the sea.</p> <p>Wilf picked up a shell.</p> <p>Chip picked up a coconut.</p>	<p>子どもたちは海へかけていきました。</p> <p>ウィルフは貝殻をひろいます。</p> <p>チップはココナッツをひろいます。</p>
13	<p>Biff climbed up a tree.</p> <p>Wilma went in the sea.</p> <p>"This is magic," they said.</p>	<p>ビフは木にのぼります。</p> <p>ウィルマは海に行きました。</p> <p>「これは魔法だね」子どもたちは言いました。</p>
14	<p>They played on the sand.</p> <p>They played in the sea.</p> <p>"What an adventure!" said Biff.</p>	<p>子どもたちは砂浜で遊んでいます。</p> <p>海でも遊んでいます。</p> <p>「なんていう冒険！」ビフが言いました。</p>
15	<p>A pirate came up.</p> <p>He looked at the children.</p> <p>"Children!" said the pirate.</p>	<p>海賊がやってきました。</p> <p>子どもたちを見えています。</p> <p>「子どもたちだ！」海賊が言いました。</p>

16	<p>"Pirates!" said the children.</p> <p>"Oh help!" they said.</p> <p>"Come on," said the pirates.</p>	<p>「海賊だ！」子どもたちが言いました。</p> <p>「きゃー助けて！」子どもたちが言いました。</p> <p>「おいで」海賊が言いました。</p>
17	<p>The pirates had a boat. They went to the pirate ship.</p> <p>"I don't like pirates," said Biff.</p>	<p>海賊はボートを持っていました。海賊は海賊船へと向かいました。</p> <p>「海賊は好きじゃないわ」ビフが言いました。</p>
18	<p>"Look at that pirate," said Biff.</p> <p>"Look at that big rope," said Chip.</p> <p>"I'm frightened," said Wilf.</p>	<p>「あの海賊を見て」ビフが言いました。</p> <p>「あの太いロープを見て」チップが言いました。</p> <p>「こわい」ウィルフが言いました。</p>
19	<p>"We wanted a party," said the pirate.</p> <p>"Nobody wanted to come.</p> <p>Will you come to the party?"</p>	<p>「パーティーをしたかったんだ」海賊が言いました。</p> <p>「だれも来たがらなかったんだ」</p> <p>「パーティーに来てくれる？」</p>
20	<p>The children went to the party.</p> <p>It was a good party.</p> <p>"I like pirates," said Biff.</p>	<p>子どもたちはパーティーに参加しました。</p> <p>よいパーティーでした。</p> <p>「海賊は好きよ」ビフが言いました。</p>
22	<p>The key was glowing.</p> <p>It was time to go.</p>	<p>鍵が光っています。</p> <p>もう行く時間です。</p>
23	<p>"Goodbye" said Chip.</p> <p>"Thank you for the party."</p> <p>"Oh no!" said the pirates.</p>	<p>「さようなら」チップが言いました。</p> <p>「パーティーをありがとう」</p> <p>「あつ、ダメだ！」海賊が言いました。</p>
24	<p>"What an adventure!" said Wilma.</p> <p>"I liked the pirates," said Biff.</p> <p>Wilf looked at the little hat.</p>	<p>「なんていう冒険！」ウィルマが言いました。</p> <p>「海賊を気に入ったわ」ビフが言いました。</p> <p>ウィルフは小さな帽子を見ました。</p>

語句の解説

- p.1 about ～について pirate (s) 海賊 p.3 Don't be silly ばかなことを言うな。
p.5 work (ing) を動かす・作動する・働いている lock かぎ(key は差し込む方のかぎ)
p.12 coconut ココナッツ p.14 on the sand 砂浜で
p.15 came up (come up の過去形) 近づく・上がる・出る
p.18 frightened おびえた・こわがった p.19 Will you～ ～ませんか

発音のポイント

海賊船に向かうボートが出てきますが、この外来語であるボートのように長音の「ー」マークは実はほとんどの場合には、英語では伸ばす発音ではありません。boatのように母音(a,e,i,o,u)が2文字重なるときは、前の母音をアルファベット読みすることが多いのです。つまりボートというよりは、ボウトに近いわけですね。ロープもそうです。こちらはrope というようにeで終わる単語です。eの前にある母音をアルファベット読みし、サイレントeと呼ばれています。ロープではなく、ロウプに近い発音です。ただしすべてのeのつく単語にあてはまるわけではありません。他に[ou]と発音するものがPirate Adventureには出てきます。don't, glow, Oh, no, windows, opened, coconut, nobody, goなどです。

CDを聞きながらまねするという時には、意識的に正確な発音を心がけるようにしていきましょう。

Does Biff like pirates?

ビフは海賊を好きだと言ったり、好きではないと言ったりしていますね。このお話の中の海賊を、ビフは好きなのでしょうか。それをつきとめてみましょう。

1. Find Biff's comment on pirates. 「ビフが海賊についてコメントしている発言を探してみます。」
2. Underline the sentences. 「文章に線を引きます。」
p.1 "I don't like pirates," she said.
p.17 "I don't like pirates," said Biff.
p.24 "I liked the pirates," said Biff.
3. "Why is Biff feeling like that?" 「なぜビフはそうに感じているのでしょうか。」子どもたちに理由を考えてもらいましょう。
4. "Does Biff like Pirates?" 「ビフは海賊を好きなのでしょうか。」
5. 自分の考えを言ってみます。ビフが好きだと思うならば、I think that Biff likes the pirates. 好きではないと思うならば、I don't think that Biff likes the pirates. のように言います。

■ p.23 でなぜ海賊が "Oh no!" と言ったのでしょうか。

答え: p.24 ウィルフが小さな帽子を持ち帰ってしまったからです。

■ どんなふうに魔法がかかっていきましたか。p6-7 を The Magic Key と比較してみましょう。

3. The Dragon Tree 「ドラゴンツリー」 (294 語)

キッパーが絵本を読んでいると、今度はマジックキーがみんなをドラゴンの所に連れていってしまいます。

	3. The Dragon Tree	ドラゴンツリー
1	Kipper was looking at a book. The book was about a dragon. Kipper couldn't read the story.	キッパーは本を見えています。 本はドラゴンについてのものです。 キッパーはその物語が読めません。
2	Biff didn't want to read it. She didn't like dragons.	ビフは読みたくありません。 ドラゴンがきらいなのです。
3	Kipper went into Chip's room. Chip read the story. "I like dragons," said Chip.	キッパーはチップの部屋に行きました。 チップは本を読んでくれました。 「ドラゴン好きだな」チップが言いました。
4	Something was glowing. It was the magic key. "Oh no!" said Chip.	何かが光っています。 マジックキーです。 「これはダメだ」チップが言いました。
5	Chip picked up the box. He ran into Biff's room. "The magic is working," he said.	チップは箱を持ちました。 ビフの部屋へと走ります。 「魔法がかかっている」チップは言いました。
6	Chip picked up the key. They looked at the magic house. "The door is open," said Biff.	チップがかぎを取りました。 子どもたちはマジックハウスを見ました。 「ドアが開いている」ビフが言いました。

7	The magic was working. It took the children inside. It took Floppy too.	魔法がかかりました。 魔法で子どもたちは中に入っていきます。 フロッピーもです。
8	It took them to a wood.	子どもたちは森につきました。
9	Floppy didn't like the wood. He was frightened.	フロッピーは森が好きではありませんでした。 彼はこわがっています。
10	Biff pulled Floppy. "Come on," she said. "Don't be silly."	ビフがフロッピーを引っぱります。 「さあ、おいで」ビフは言いました。 「ばかなことはしないで」。
11	An owl flew out of a tree. Floppy didn't like the owl. He ran away.	ふくろうが木から飛びだしてきました。 フロッピーはふくろうも好きではありません。 フロッピーは逃げてしまいました。
12	Floppy ran out of the wood. "Come back," called Biff. "Come back," called Chip.	フロッピーは森から出ていってしまいました。 「戻っておいで」ビフが呼びました。 「戻ってこい」チップが呼びました。
13	It was no good. Floppy ran and ran. "Oh help!" said Biff.	あまりよいことではありません。 フロッピーはどんどん走っていきます。 「助けて！」ビフが言いました。
14	The children looked for Floppy. They called and called. "Floppy! Come back!" they called.	子どもたちはフロッピーを探しました。 何度も何度も呼びました。 「フロッピー！ 帰っておいで！」子どもたちは呼びました。
15	The children came to a tree. It was called "The Dragon Tree". A dragon lived under the tree.	子どもたちは木にたどりつきました。 「ドラゴンツリー」と呼ばれる木でした。 ドラゴンが木に住んでいます。

16	The dragon had Floppy. He wanted Floppy for supper. Floppy was frightened.	ドラゴンがフロッピーをつかまえていました。ドラゴンはフロッピーを夕食にしたかったのです。フロッピーはこわがっています。
17	"Oh no!" said Biff. "What a nasty dragon! I don't like dragons."	「なんていうこと！」ビフが言いました。 「いやなドラゴンだわ！ドラゴンはきらいよ！」
18	Biff looked at the dragon's tail. She took off her belt.	ビフはドラゴンのしっぽを見ました。 自分のベルトをはずしました。
19	She put it round the tail. Chip helped her.	ビフはベルトをしっぽにぐるりと巻きました。チップが手伝いました。
20	Kipper went inside the tree. He pulled Floppy out. Chip helped him.	キッパーが木の中に入りました。 キッパーはフロッピーをひっぱりだします。チップがキッパーを助けます。
21	The dragon was cooking. It didn't see them.	ドラゴンは料理中でした。 ドラゴンは子どもたちを見ませんでした。
22	"Come on!" called Chip. They ran and ran. The key was glowing.	「さあ行こう！」チップが言いました。 子どもたちは走って、走りました。 かぎが光っていました。
23	"The key is glowing," called Biff. "It's time to go home."	「かぎが光っているわ」ビフが言いました。「もう家に帰る時間だわ」。
24	"What an adventure!" said Chip. "I don't like the dragons," said Biff.	「なんていう冒険なんだ」チップが言いました。「ドラゴンは好きじゃないわ」ビフが言いました。

語句の解説

p.2 dragon (s) 竜・ドラゴン(翼と爪を持ち、口から火を吐く想像上の動物)

p.7 took (take の過去形) 連れていった

p.8 a wood 森・林(単数形で)→the woods とも言います。forest よりやや小さめです。

p.11 out of～ ～から p.15 under の下 p.16 supper 夕食

p.17 nasty すごくいやな・怒りっぽい・意地悪い p.18 tail しっぽ

読むポイント

“It took the children inside.” (p.7) It took Floppy too. (p.7) It took them to a wood. (p.8) のように take には「連れていく・持って行く」という意味があります。take には食事をする、受け入れる、取る、経験するなど書ききれないほどの意味があります。便利な単語なので、文章をそのまま暗記してしまいましょう。言いたいことに合わせて単語をかえていくと使いやすいでしょう。

発音で気をつけてほしいのは、長母音“ee”“ea”です。これは母音が重なっているので、前の母音をアルファベット読み、つまり、「イー」と発音します。read, tree, see などそうです。

ダイアローグ

物語を読む時には、登場人物が誰であるかを把握するのが重要です。そのために誰がどうしているのかとらえるように、普段から心がけましょう。

1. 色鉛筆を6本用意します。誰か(何か)が登場するたびに、色をかえて○で囲みます。それぞれの人物が最初に登場した所に、色鉛筆で○とマークします。
p.1 Kipper p.2 Biff p.3 Chip p.7 Floppy p.14 the children , a dragon
2. 今度は引用符“ ”の所が誰(何)のセリフかを判断します。1.でマークした色で、その引用符の中のセリフに線を引いていきます。
3. 子どもたちにひとりずつ誰かになってもらいます。
4. 子どもたちを半分ずつの人数にわけます。一つのグループには、CDをかけながら、自分の決めた人のセリフの所が流れているときだけ、立ち上がってもらいます。もうひとつのグループは、相手グループの立ち上がった様子を見て、誰が誰を選んだのか当てます。
5. 終わったら今度は役を変えて行いましょう。

4. Gran 「おばあちゃん」 (309 語)

おばあちゃんが飛び跳ねていますね。何やらただものではなさそうです。

	4. Gran	おばあちゃん
1	A car came to the house. The children ran to see. "It's Gran," said Kipper.	車が家に来ました。 子どもたちが見に行きました。 「おばあちゃんだ」キッパーが言いました。
2	"Come in," said Mum. "Come in," said Dad.	「いらっしゃい」ママが言いました。 「いらっしゃい」パパも言いました。
3	The children helped. They took Gran's things. "What a lot of things!" said Kipper.	子どもたちはお手伝いをします。 おばあちゃんの物を運びます。 「なんてたくさんの物があるのだろう！」 キッパーが言いました。
4	The children liked Gran and Gran liked the children.	子どもたちはおばあちゃんが好きで、おばあちゃんは子どもたちを好きです。
5	"Come and see my toys," said Kipper. "Come and see my room," said Biff. "Come and play," said Chip.	「ボクのおもちゃを見にきてよ」キッパーが言いました。 「私の部屋を見にきてよ」ビフが言いました。「遊びにきてね」チップが言いました。
6	Gran played with the children. They played inside. "Oh no!" said Mum.	おばあちゃんは子どもたちと遊んでいます。みんなは中で遊びました。 「まあ！」ママが言いました。
7	They went outside and played football. "Oh no!" said Dad.	みんなは外に出てサッカーをしました。「これはダメだ！」パパが言いました。

8	Gran took the children out. They went in Gran's old car. Wilf and Wilma went too.	おばあちゃんは子どもたちを外に連れていきます。子どもたちはおばあちゃんの古い車に乗り込みました。ウィルフとウィルマも行きました。
9	"What an old car!" said Wilf. "It's a good car," said Gran.	「なんて古い車なんだろう！」ウィルフが言いました。「いい車よ」おばあちゃんは言いました。
10	Gran took them to the fun park. "This looks fun," said Gran. "Come on, everyone."	おばあちゃんは遊具つき公園に連れていきました。「おもしろそうね」おばあちゃんと言います。「みんなおいでよ」
11	The children began to run. They wanted to go on everything. "Come on, Gran," they called	子どもたちはかけだしました。 すべての乗り物に乗りたがりました。 「さあいこうよ、おばあちゃん」子どもたちは言いました。
12	"Look at this," said Kipper. "It's a castle. It's called Jumping Castle."	「これを見て」キッパーが言いました。 「お城だよ。ジャンピング・キャッスルと言うんだ」
13	The children went on the jumping castle. "This is fun," called Wilma.	子どもたちはジャンピング・キャッスルに乗りました。 「これはおもしろい」ウィルマが言いました。
14	The children jumped and jumped, and bounced and bounced. "Come on, Gran," they called	子どもたちは跳んで、跳んで、はねて、はねまくりました。 「おばあちゃん、来てよ」みんなが呼びました。
15	Gran went on the castle. She jumped and bounced.	おばあちゃんがお城に来ました。とんではねてみました。

	“Good old Gran,” called the children.	「おばあちゃん、やる！」子どもたちが言いました。
16	Gran made a hole in the castle. “Oh no!” said the children. The castle began to go down.	おばあちゃんはお城に穴をあけてしまいました。「やっちゃった！」子どもたちは言いました。お城は沈みはじめました。
18	A man ran up. He was cross with Gran. “Look at my castle,” he yelled.	おじさんがやってきました。 おばあちゃんにかんかんです。 「私のお城を見なさい」おじさんが叫びました。
19	“Go home,” yelled the man, “and don’t come back.” Gran took the children home.	「家に帰れ」おじさんが叫びました。 「二度と来るんじゃない」 おばあちゃんは子どもたちを家に連れ帰りました。
20	Biff told Mum about the castle. Mum was cross with Gran. Gran was sad.	ビフがママにお城の話をしました。 ママはおばあちゃんに怒っています。 おばあちゃんは悲しんでいます。
21	Gran was in Chip’s room. She looked at the magic key. The key was glowing.	おばあちゃんはチップの部屋に来ました。 マジックキーをながめます。 鍵が光っていました。
22	Gran picked up the key and ran into Biff’s room. “Look at this,” she said.	おばあちゃんは鍵を取り、ビフの部屋に入ってきました。 「これを見て」おばあちゃんは言いました。
23	“Oh no!” said Kipper. “It’s the magic. The magic is working.”	「あれ？」キッパーが言いました。 「魔法だ、魔法がかかっている」。
24	The magic took them to a new adventure.	魔法はみんなを新たな旅に連れていきます。

語句の解説

p.3 thing (s) 物 a lot of たくさんの

p.7 football (英)サッカー (米)アメリカンフットボール p.10 fun 楽しい・おもしろい

p.11 everything すべてのも p.12 castle 城 p.14 bounce (d) 跳びはねる・反射する

p.16 hole 穴 p.18 cross (英) 人を怒らせる・横断する yell(ed) どなる・叫ぶ

イギリス英語・アメリカ英語

ORT の CD にはイギリス英語とアメリカ英語が録音されています。イントネーションやリズムがそれぞれ違いますが、この絵本に何度も出てくる castle の言い方にも違いがはっきりと表れています。CD を何度も聞いて、両方の言い方をマネしてみましょう。

Copy the notices

Gran にはたくさん標示が出てきています。それらは大文字で目立つようになっています。ひとつだけ書き加えられているものがありますね。

1. 標示を探します。
2. 標示をみつけたら、ノートに書きうつします。
3. いくつ見つかるでしょうか。

p.2-3 WITH CARE p.10 NO PARKING p.12 CHILDREN ONLY

p.19 CHILDREN ONLY NO GRANS!

なんとおばあちゃんの編み棒で穴をあけてしまったら、立て看板が書きかえられてしまいました。

Find the reasons

マジックキーが魔力をしめす大人は、おばあちゃんだけです。その理由を考えていきます。Gran の中で、おばあちゃんは何度も“ Oh no!” と言われています。

1. CD を聞きながら“ Oh no!” という会話にしろしをつけます。
2. それらは誰が言われているのでしょうか。会話はたいていその前の文章に呼応して発せられています。“ Oh no!” の直前の文章を見ていきます。

p.6 Gran played with the children. They played inside. “ Oh no!” said Mum.

(おばあちゃんが子どもたちと一緒に家の中で遊んでいます。絵を見ると、おばあちゃんのせいで花瓶が倒れてきています。)

p.7 They went outside and played football. “ Oh no!” said Dad. (そこで戸外に出てサッカーをしたら、今度はおばあちゃんが蹴ったボールが窓に命中して、ガラスが割れてしまいます。)

p.16 Gran made a hole in the castle. “ Oh no!” (おばあちゃんはお城で飛び跳ねていたら、穴をあけてしまいました。)

以上から、おばあちゃんが“ Oh no!” と連発されていることがつかめます。

3. では、おばあちゃんと一般的な大人のちがいは何でしょうか。大人というと理性ある行動をするイメージがあります。ところが、このおばあちゃんは子どものような心の持ち主。大人から怒られっぱなしです。この辺がマジックキーを使えるかどうかの重要なポイントになっているようです。
4. おばあちゃんがマジックキーを使える理由を書いてみましょう。
 - 子どものような心を持っているから。
 - いたずらをしてしまうからなど様々な理由が考えられるでしょう。

5. Castle Adventure 「お城の冒険」 (306 語)

おばあちゃんが、マジックキーではじめて冒険に出かけたのはお城でした。お城には3人の意地悪魔女たちが、待ちかまえていました。

	5. Castle Adventure	お城の冒険
1	The magic took them to a castle.	魔法でみんなはお城につきました。
2	Three witches lived in the castle. They were nasty witches.	3人の魔女がお城に住んでいました。 意地悪魔女たちでした。
3	One was a black witch. One was a red witch. One was a green witch.	ひとりは黒い魔女。 ひとりは赤い魔女。 もうひとりはみどりの魔女でした。
4	The magic took the children inside the castle. It took them to a room.	魔法で子どもたちはお城の中に入りました。 みんなはある部屋につきました。
5	A frog was in the room. "I am a king," said the frog. "I am the king of this castle."	カエルが部屋にいました。 「私が王様なのです」カエルが言いました。 「私がこの城の王様なのだ」。
6	"The witches turned me into a frog. Help me," he said.	「魔女が私をかえるにしまったのです。助けてください」カエルは言いました。
7	A witch was coming. It was the black witch. "Look out!" said the frog.	魔女がきます。 黒い魔女です。 「気をつけて」カエルが言いました。

8	The witch opened the door. Gran pushed the witch. Chip took the witch's keys.	魔女がドアを開けました。 おばあちゃんは魔女を押したおします。 チップが魔女の鍵を取りあげます。
9	They ran out of the room. Chip locked the door. The witch couldn't get out.	みんなは部屋から出てきました。 チップがドアをロックします。 魔女は外に出られません。
10	Everyone ran. "Look out!" called Chip.	みんなが走ります。 「気をつけて！」チップが叫びました。
11	A witch was coming. It was the red witch.	魔女が近づいてきました。 赤い魔女です。
12	"I don't like witches," said Gran. She put a net over the witch.	「魔女は好きじゃないのよ」おばあちゃんは 言いました。 おばあちゃんは魔女にネットをかけました。
13	The witch couldn't get out. "Good old Gran," called Biff.	魔女は出られません。 「おばあちゃん、すごい」ビフが言いました。
14	Gran went to the green witch. "I don't like witches," said Gran. "I don't like nasty witches."	おばあちゃんは緑の魔女の所に行きまし た。「私は魔女が好きじゃないのよ」おばあ ちゃんは言いました。 「私はいじわるな魔女が好きじゃないの」。
15	Gran threw the witch on the floor. "Help!" yelled the witch. "Good old Gran," said the children.	おばあちゃんは魔女を床になげました。 「助けて！」魔女が叫びました。 「さすがおばあちゃん」子どもたちが言いま した。
16	Some frogs came in and jumped on the table. One was the king.	カエルが何匹か入ってきて、テーブルの上 ではねました。 一匹は王様でした。

17	<p>“Help us,” he said. Biff and Gran looked in the witches’ book.</p>	<p>「わたしたちを助けてください」王様は言いました。ビフとおばあちゃんは魔女の本を見えています。</p>
18	<p>The frogs turned into people. “Thanks!” said the king.</p>	<p>王様が人間に変わりました。 「ありがとう！」王様が言いました。</p>
19	<p>The witches turned into frogs. Gran put the book on the fire. “Oh no!” said the witches.</p>	<p>魔女たちはカエルに変わりました。 おばあちゃんが本を火に入れます。 「だめ！」魔女が言いました。</p>
20	<p>The king had a party. Everyone went to it. “What a good party!” said Chip.</p>	<p>王様はパーティーを開きました。 みんな参加しました。 「なんてステキなパーティーなんだろう！」チップが言いました。</p>
21	<p>“What an adventure!” said Biff. “I like adventures,” said Gran. “Good old Gran!” said everyone.</p>	<p>「なんていう冒険なのでしょう！」ビフが言いました。「私も冒険がすきよ」おばあちゃんが言いました。「おばあちゃんすてき！」</p>
22	<p>The magic key was glowing. “It’s time to go,” said Biff. “Goodbye,” said the king.</p>	<p>マジックキーが光っています。 「行く時間だわ」ビフが言いました。 「さようなら」王様が言いました。</p>
23	<p>The magic took them back to Biff’s room.</p>	<p>魔法でビフの部屋に戻りました。</p>
24	<p>They fell on to Biff’s bed. “Oh no!” said Mum.</p>	<p>みんなはビフのベッドに落ちてきました。 「あら、まあ！」ママは言いました。</p>

語句の解説

p.2 witch (es) 魔女 p.6 turn (ed) A into B AをBに変える p.7 look out 気をつける
p.9 ran out of (run out of の過去形) ～からかけて出る p.9 get out 出ていく・逃げる
p.14 nasty 意地の悪い・ひどい p.15 yell (ed) 叫ぶ・どなる p.18 spell 魔法
p.24 fell on to (fall on to の過去形) に倒れる

魔女

魔女というと黒いとんがり帽子をかぶり、黒い服を着ている存在です。ここでは 3 人の魔女が出てきます。それぞれがどのように退治されていきますか。黒い魔女、赤い魔女、緑の魔女について、どうなったのでしょうか。

語ってみよう

ステージ 5 になると、長さがあり読み応えのある絵本になってきました。そこで何度か CD をかけながら読んだら、そのストーリーを語れるかどうかを試してみましょう。

1. CD を聞きながら何度か本を読みます。お話の流れはわかってきましたか。
2. あらすじをつかみます。小学生の場合には、見開き 2 ページの中から 1～2 文大切だと思う所にマークを入れてもらいます。本の最初から最後までこの要領で行います。最後にマークした部分をつなげて言っていくとまとめ方がわかってきます。
3. 2. でまとめたものを言えるように練習します。ペアを組んでお互いにあらすじを相手に伝えます。聞いていた方は、印象をコメントするようにしましょう。
4. 自信がついたら、今度は全体の前で発表してみましょう。

6. Village in the Snow 「村は雪げしき」 (329 語)

6. Village in the Snow

- 1 The children were at school.
It was playtime.
“Come in,” called Mrs May.
- 2 Mrs May told the children a
story. The story was about a
village. The village was in the
mountains.
- 3 Everyone liked the story. It was
called *The Village in the Snow*.
- 4 The children went to Biff’s room.
They wanted an adventure
- 5 Biff picked up the magic key.
The key began to glow.
“The magic is working,” said Biff.
- 6 The magic took the children to
the village in the snow.
“It’s lovely,” said Biff.
- 7 Kipper jumped in the snow.
“I like the snow,” he called.
“This is fun.”

村は雪げしき

- 子どもたちは学校にいます。
休み時間です。
「中に入りましょう」メイ先生が言いました。
メイ先生が子どもたちにお話をしてくれてい
ます。お話は村についてです。
その村は山々に囲まれていました。
- みんなその話を気にいりました。その話
は、「村は雪景色」というものです。
- 子どもたちはビフの部屋に行きました。
子どもたちは冒険をしたいのです。
ビフがマジックキーを取り出しました。
かぎが光りはじめました。
「魔法が働いているわ」ビフがいました。
魔法で子どもたちは雪の村にきました。
- 「すてきね」ビフが言いました。
キッパーは雪にとびこみます。
「僕、雪がすきなんだ」キッパーが大声で言
いました。「たのしいね」。

8	They played in the snow. They made a snowman and put Kipper's hat on top.	みんなは雪遊びをしました。雪だるまを作 って、てっぺんにキッパーの帽子をのせま した。
9	They jumped in the snow. They threw snowballs. "Look," said Wilma.	みんなは雪の上を飛びはねました。 雪のボールを投げました。 「見て」ウィルマが言いました。
10	They saw a little boy. The boy was pulling a toboggan. Some big boys ran up.	みんなは小さい男の子をみかけました。 男の子はそりをひっぱっていました。 大きな男の子たちがかけよってきました。
11	They pushed the little boy over. They pushed the toboggan over and they ran away.	その子たちは小さい男の子を倒しました。 そりも倒して逃げてしまいました。
12	The children ran up. They helped the little boy. Kipper picked up his hat.	子どもたちがかけよりました。 小さな男の子を助けました。 キッパーは帽子を拾ってあげました。
13	The little boy told them about the big boys. Kipper was cross.	小さな男の子は大きな男の子たちについて 話しました。 キッパーは怒りました。
14	Kipper put on the little boy's hat. He put on his coat. "Come on," he called.	キッパーは小さな男の子の帽子をかぶりま した。コートも着ました。 「さあこい」キッパーは大声で言いました。
15	The big boys looked at Kipper. Kipper looked like the little boy. "Come on," said the big boys.	大きな男の子たちはキッパーを見ていまし た。キッパーは小さな男の子のように見え ました。「さあ、行こう」大きな男の子たちは 言いました。

16	The children threw snowballs at the big boys. “Help! Help!” yelled the big boys.	子どもたちは大きな男の子たちめがけて雪玉を投げつけました。 「助けて！助けて！」と大きな男の子たちが言いました。
17	The big boys ran away. The little boy jumped and jumped in the snow.	大きな男の子たちは逃げました。 小さな男の子は雪の中をぴょんぴょん跳びました。
18	The children put the little boy on the toboggan. They pulled him home.	子どもたちは小さな男の子をそりにのせました。 その子をひっぱって帰りました。
19	The little boy lived with his grandfather.	小さな男の子はおじさんと住んでいました。
20	Grandfather gave the children a drink. The children told Grandfather about the big boys.	おじさんは子どもたちに飲み物を出しました。子どもたちはおじさんに大きな男の子たちの話をしました。
21	They told Grandfather about the snowball fight.	おじさんに雪玉のなげあいについても話しました。
22	The children played in the snow. They went on the toboggan. “This is fun,” said Wilf.	子どもたちは雪遊びをしました。 そりに乗ってみました。 「これはおもしろい」ウィルフが言いました。
23	The magic key began to glow. “It’s time to go,” said Biff. “Come on,” she said.	マジックキーが光り始めました。 「もう行かなくちゃ」ビフが言いました。 「さあ行こう」と言いました。
24	The magic took the children home. “What an adventure!” said Chip.	魔法で子どもたちは家に戻りました。 「なんていう冒険なんだ」チップが言いました。

語句の解説

表紙 village 村 p.1 at school 学校に

playtime (英) 休み時間 アメリカだと recess という。

p.2 mountains 山・山脈 p.6 lovely すてきな・かわいらしい p.8 snowman 雪だるま

p.9 threw (throw の過去形) 投げる

p.10 toboggan 雪や氷の坂をすべり下りる先端を曲げた木製のそ

p.11 ran away (run away の過去形) 逃げる p.13 cross 怒った p.14 put on 着る

p.19 grandfather おじいさん p.23 It's time to ~の時間

Q and A

お話を読んで質問をしてみましょう。

1. 6 枚のカードを人数分だけ用意します。それぞれに when, where, who, what, which, how と書き込みます。
2. 2~4 名でグループになります。全員にカードを配ります。
3. ひとりずつばば抜きで、カードを順々に取り、同じものが 2 枚揃ったら出していきます。2 枚同じものを引いたら、その場でみんなにその単語を使って質問します。質問ができたときだけ、そろった 2 枚のカードを捨てられます。質問を作ったら、残りの人は答えます。早く手持ちのカードがなくなった人の勝ちです。

たとえば **Where** のカードを引いた場合には、Where are the children? 「子どもたちはどこ?」というように作ります。

本文著者 宮下いつみ

Eunice English Tutorial 主宰

SEG 英語多読コース講師

東京音楽大学付属高校非常勤講師

Oxford Reading Tree Level 5 More Stories A

- ① The Whatsit [305 語]
- ② Underground Adventure [292 語]
- ③ Vanishing Cream [313 語]
- ④ It's Not Fair [368 語]
- ⑤ The Great Race [324 語]
- ⑥ A Monster Mistake [334 語]

The Whatsit 「なんとかというもの」 (305 語)

Before Reading

4 人の子どもがなぞの物体を囲んで考えこんでいます。いったいこれは何なのでしょう。また題も Whatsit とまるでミスプリのような題ですね。

	The Whatsit	なんとかというもの
1	Mum and Dad painted the kitchen. Dad painted the ceiling. Mum painted the walls.	パパとママは台所のペンキ塗りをしました。 パパは天井を塗りました。ママは壁を塗りました。
2	Mum pulled up the old carpet. “The walls look good,” she said. “But this looks a mess.”	ママは古いじゅうたんをはがしました。 「壁がよく見えるわね」とママは言いました。 「でもこれが問題よね」。
3	Dad looked at the floor. “We need a new carpet,” said Biff.	パパは床をみました。「新しいじゅうたんが必要よね」とビフは言いました。
4	Mum found a trap door. She pulled it up.	ママは落とし戸を見つけました。 ひっぱって開けてみました。
5	Everyone looked. “It’s a cellar,” said Dad.	みんながのぞきました。 「地下室だ」とパパが言いました。
6	Mum went into the cellar. “It looks big,” she said.	ママが地下室に下りていきました。 「広いみたいだわ」とママが言いました。
7	The children looked in. “It looks dark,” said Biff. “It looks spooky,” said Chip.	子どもたちが中をみました。 「暗いわ」とビフが言いました。 「ぶきみにみえるよ」チップが言いました。

8	Dad got a light. They went into the cellar.	パパがライトを持ってきました。 みんなは地下室に入っていました。
9	Kipper found an old sheet. “I’m a ghost,” he said. ‘Whooooooooooooa...!’	キッパーは古いシーツを見つけました。 「おばけだぞ」とキッパーは言いました。 「わーーーーー！！」
10	“Look at this,” said Kipper. “What is it?” asked Chip.	「これを見て」キッパーが言いました。 「それはなあに？」チップが聞きました。
11	“I don’t know,” said Mum. “It’s a whatsit,” said Dad.	「わからないわ」ママが言いました。「なん とかというものだよ」パパが言いました。
12	Wilf and Wilma came to play. They looked at the whatsit. “What is it?” asked Wilma.	ウィルフとウィルマが遊びにやってきました。 ふたりはなんとかというのを見まし た。「それはなあに」とウィルマがたずね ました。
13	“It’s a whatsit” said Chip. “We found it in the cellar.”	「それはなんとかっていうのさ」チップが言 いました。「僕たちが地下室でみつけたん だ」。
14	Two men came to the house. They came in a lorry. They took away the old things.	二人の男性が家にきました。 トラックできました。 古いものを持っていきました。
15	One man looked at the whatsit. “What is it?” he asked. “It’s a whatsit,” said Dad.	ひとりの男性がなんとかというのを見ま した。「これは何ですか」とたずねました。 「これはなんとかというものなんです」とパ パが言いました。
16	The men took the whatsit. They put it in the lorry. A car stopped.	男の人たちはなんとかというものを持って いきました。それをトラックに入れました。 車が止まりました。

17	A lady jumped out and called to the men. "Stop!" she said.	女性が中から飛び降りてきて、男性をひきとめました。 「待って！」と彼女は言いました。
18	The lady wanted the Whatsit. She wanted it for a museum. The men put it in the car.	女性はなんとかというものを欲しがりました。博物館のために欲しかったのです。 男性が車にそれを入れます。
19	The lady gave Dad some money. "Come to the museum," she said, "and bring the children."	女性はパパにいくらかお金を渡しました。 「博物館にいらしてください」女性が言いました。「子どもを連れてきてください。」
20	The Whatsit was in the museum. Mum and Dad went to see it.	そのなんとかというものは博物館にありました。 ママとパパが見にいきました。
21	They took Biff, Chip and Kipper. "So that's what it is," said Dad.	ママとパパはビフ、チップ、キッパーを連れていきました。「ああこうだったんだね」パパが言いました。
22	Mum and Dad had a surprise. It was for the children. "What is it?" asked Biff.	ママとパパは思いがけないものを用意していました。子どもたちにでした。 「何かしら」ビフが聞きました。
23	"It's a Whatsit," said Dad. He pulled off the sheet.	「なんとなかっていうやつだよ」パパが言いました。パパはシーツをはがしました。
24	The Whatsit was a snooker table. "It's brilliant!" they said.	なんとなかというのは、スヌーカーのテーブルでした。「すばらしい！」と子どもたちは言いました。

After Reading

このなぞの物体は毛糸を巻くものだったのですね。昔の時代には、きっとこのように毛糸を巻いていたのだというのがしのばれます。昔は、編み物やキルティングというのは女性にとって大切な任務だったようです。

本を読んでいくときには、すべての単語を知っているというわけではありません。知らない単語に出会ったときに、推測していくというのにも必要になってきます。ここではたとえば p.18 の museum を知らなかったとしますと、最初に museum の女性が訪れたときには、その意味がはっきりしないかもしれません。しかし、ページをめくっていくと実際に whatsit が陳列されている場面が出てきます。ここで、このように模型があって陳列されている所といえば、博物館とか美術館かなとわかれればしめたものです。

はじめからわからないと辞書を引くのではなく、なるべくこのように考える癖をつけていきましょう。

何かわからないときは Whatsit

whatsit というのは、ちょっと変わった言葉に見えますね。これは、言葉が思い出せないときや、その言葉を言いたくないときに漠然と「あの何とかというもの」と指している言い方です。似た言い回しには、what's-its-name、you-know-what「例のあれ」もありますが、you-know-what は性的な「ナニ」という意味も持ちます。

クラスで楽しもう

教室では、whatsit がいったい何であるのかをみんなで想像していきましょう。お話を推測する楽しみを養うことと、みんなの前で発表することに慣れるのが目的です。

準備するもの： 画用紙またはミニホワイトボード(人数分)

色鉛筆・クレヨン・マーカーなど

- 1) 最初に本を読むときに、p.19 でいったんページを止めます。

- 2) いったい whatsit が何であるのかを想像するために、最初は whatsit がどのように動くか、大きさはどのくらいかなどを話し合ひましょう。また地下室から発見された状況からしていつ頃の話なのかも予測しましょう。
- 3) ある程度想像したら、次は何に使われているかを絵に描いていきます。
画用紙またはホワイトボードに I think the whatsit is a と書き、□にそれぞれ思ったことを書きます。スペルがわからない場合には指導者が教えます。少人数ならば、小さなホワイトボードを使うと楽しくお絵かきができます。(100 円 ショップなどで購入できます。)
- 4) それぞれの予想を発表します。発表させる前に、何度か全員で練習します。少人数ならばひとりずつ全員の前で、大人数ならばグループに分けてその中で発表します。
例: I think the whatsit is a _____
発表するときには、発表者はみんなの前に立ちます。聞き手は座っています。大きな声で笑顔で発表していきます。聞き手は、話している人の方をきちんと見て終わったら拍手をしましょう。指導者はうまくできてもできなくても、“Good job.” などのようにほめことばをかけてあげて、自信を持てるようにして下さい。

ことばの解説

- p.4 trap door 床または天井についているドア
- p.5 cellar 地下室(貯蔵庫として使われる場合が多い)
- p.7 spooky 薄気味悪い(おばけが出そうな感じ)
- p.9 sheet シーツ、用紙
- p.11 whatsit 何とかというものの、あれ(名前が思い出せないときや、その名前を言いたくないときに使うことば)
- p.14 lorry トラック(米語では truck と言う)
- p.18 museum 博物館・美術館(米語では museum という主と美術館をさします。)
- p.24 snooker スヌーカー スヌーカーは、ビリヤードのゲームのひとつである。15 個の赤色の球と 6 個のカラーボール(青・ピンク・黒・茶・緑・黄)を使う。

Underground Adventure 「地中探検」 (292 語)

Before Reading

本格的な探検のはじまりを予感させる地下のランプです。いったい表紙のトンネルの先には何が待っているのでしょうか。

Underground Adventure	地中探検
1 The children were in the cellar. They wanted to find a secret tunnel.	子どもたちは地下室にいました。 秘密のトンネルを探そうとしていました。
2 The children looked everywhere. They tapped on the floor. They tapped on the walls	子どもたちはあちこちを探しました。 床をたたいてみました。 壁もたたいてみました。
3 But there was no secret tunnel. “It’s no good,” said Biff.	でも、秘密のトンネルはありませんでした。 「ないわね」とビフが言いました。
4 Kipper ran to the cellar. He had the magic key. The key was glowing.	キッパーが地下室に走ってきました。 マジック・キーを持っていました。 カギは光っていました。
5 They ran to Biff’s bedroom. “Come on!” called Kipper. “It’s time for a magic adventure.”	子どもたちはビフの部屋に走って行きました。 「さあ！」とキッパーは叫びました。 「魔法の冒険の時間だ」。

6	The magic took them underground. They were in a big tunnel.	魔法で子どもたちは、地下の世界にきました。 大きなトンネルの中にいました。
7	Wilma picked up a lamp. “Come on,” she said. “Let’s go!”	ウィルマはランプを持ち上げました。「さあ」ビフは言いました。 「出発！」
8	There were elves in the tunnel. But they were shy. “Oh no!” they said. “Children!”	トンネルには小人たちがいました。 でも小人たちは恥ずかしがりやでした。 「だめだ！」と小人たちは言いました。「子どもたちだ！」
9	The children went down the tunnel. They didn’t see elves. “This way,” said Wilma	子どもたちはトンネルを進んでいきました。 小人たちに気づきませんでした。 「こっちよ」フィルマが言いました。
10	The children came to a big cave. “Wow!” said Biff.	子どもたちは大きな洞窟にたどりつきました。 「すごい！」ビフは言いました。
11	The elves looked at the children. “Oh dear!” said the elves. “Oh dear! Oh dear!”	小人たちは子どもたちを見つけました。 「どうしよう！」小人たちは言いました。 「どうしよう！ どうしよう！」
12	The cave had an echo. “Whooooooooa!” called Kipper. “Whooooooooa!” went the echo.	洞窟では音が共鳴しました。 「わー！」とキッパーが言いました。 「わー！」とこだましました。
13	“Whooooooooa!” went Kipper. The elves laughed. They laughed and laughed.	「わー！」とキッパーが言いました。 小人たちは笑いました。 小人たちはわっはっはと笑いました。

14	The elves came out. They ran to say hello.	小人たちは出てきました。 挨拶しに走ってきました。
15	"Whoooooaa!" they went. "Whoooooaa!" went the echo. And everyone laughed.	「わー！」と小人たちは言いました。 「わー！」とこだましました。 みんなが笑いました。
16	The elves were sad. They had no work.	小人たちは悲しいのです。 仕事がありませんでした。
17	"Can you help?" said the elves. "Our gold has run out. We don't know what to do." 【Last month: some gold This month: NO GOLD! Next month: HUNGRY!】	「手伝ってくれない？」と小人たちは言いました。「金がなくなってしまったんだ。 どうしてよいのかわからないのさ」。 【先月：金 少しあり。 今月：金 なし！ 来月： 飢える!】
18	Wilma had a good idea. She told the elves what it was.	ウィルマはよい考えを思いつきました。 それを小人たちに伝えました。
19	The elves liked Wilma's idea. They painted some signs. The children helped.	小人たちはウィルマの考えを気に入りました。 標識を書きました。 子どもたちは手伝いました。
20	The elves put lights in the caves. The caves looked beautiful.	小人たちは洞窟に電気をつけました。 洞窟は美しくなりました。
21	People came to see them. The elves were happy.	人々は見に訪れました。 小人たちは幸せでした。
22	The elves were busy. "Thanks to the children," they said.	小人たちは忙しくなりました。 「子どもたちのおかげだ」と小人たちは言いました。

- | | | |
|----|--|---|
| 23 | The magic key began to glow.
It was time to go home. | マジック・キーが光り始めました。
家に帰る時間になりました。 |
| 24 | “What an adventure!” said Wilf. “I have a good idea,” said Chip.
【Visit the spooky cellar. Only 10P!】“What do you think?” | 「なんていう旅なの！」ウィルフが言いました。「よい考えがあるんだ。」とチップが言いました。
「【おばけの出そうな地下室にきませんか。たった 10 ペンス!】っていうのはどう？」 |

After Reading

子どもたちのマジック・キーでの冒険もだいぶ慣れてきたようです。p.5 ではかなりスムーズに小さな家の中に入り込んでいきます。この絵本に出てくる小人たちは表情豊かで感情もわかりやすく描かれています。子どもたちは役立ちたいと一生懸命でした。

無生物主語

英語で「秘密のトンネルがなかった」という時には、何と言いますか？p.3 を開いてください。But there was no secret tunnel. 「でも秘密のトンネルはありませんでした。」とあります。このように〈何々がなかった〉という時には、英語では〈ないものがあつた〉という言い方をして、〈ない〉という事をあらわします。p.16 にも They had no work. 「仕事がなかったのです。」というのも出ています。

英語でしゃべろうとしたときに、日本語から英語に変換して話しをする方も多いかと思います。その場合に、英語と日本語では文章の作り方の発想が異なるので、肯定文に no～をつけて、〈ない〉と表現をすることなど文章をそのまま覚えて使ってみましょう。

クラスで楽しもう

小人の表情から、あてはまる言葉を推測していき言葉の理解を深めます。

準備するもの： ポストイット

- 1) 文章の一部の単語を抜いて、ホワイトボードに書き出します。ここでは抜いた部分を下線で示します。

板書例：

p.13 The elves laughed. 実際には The elves のように書きます。

p.16 The elves were sad.

p.21 The elves were happy.

p.22 The elves were busy.

laughed sad happy busy

- 2) 子どもたちはそれぞれがポストイットに laughed, sad, happy, busy と書きます。一回書くことで、スペルの練習になります。
- 3) 該当ページを1ページずつ絵だけ見せて、それぞれのページの空白に何が入るかを 2)のポストイットから選んで、いっせいに指導者にみせていきます。
- 4) 答え合わせは、CD を聞きながら行います。

ことばの解説

p.2 tap (ped) 軽くたたく p.5 adventure 冒険

p.8 elves 「elf」の複数形。おとぎ話に出てくる小人・妖精

p.9 way 道、方法、やり方 p.10 cave 洞窟、洞穴

p.12 echo 反響する、こだまする p.22 thanks to ～ ～のおかげで

Vanishing Cream 「消えるクリーム」 (313 語)

Before Reading

表紙のチップの手に注目してください。消えてきています。題の vanishing の意味はこのイラストから伝わってきますね。

Vanishing Cream

- 1 The children were at school.
They made a little theatre.
They made it out of a box.
- 2 The children put on a play.
The play was about a wizard.
- 3 He was called Wizard Blot.
Wizard Blot made mistakes.
- 4 Wizard Blot made a spell.
The spell went wrong.
“Oh, dear! Oh dear!” said Wizard Blot.
- 5 Everyone laughed. Everyone liked the play. Mrs May liked Wizard Blot.
- 6 Biff was in her room.
The key began to glow.
“Chip! Chip!” called Biff.

消えるクリーム

- 子どもたちは学校にいました。
子どもたちは小さな劇場を作りました。
箱で作りました。
- 子どもたちは劇を上演しました。
魔法使いについてでした。
- 男の魔法使いはブロットと言いました。
魔法使いブロットはまちがいをおかしました。
- 魔法使いブロットは呪文を唱えました。
呪文をまちがえてしまいました。
「どうしよう！ どうしよう！」と魔法使いブロットが言いました。
- みんなは笑いました。みんな劇が好きでした。
メイ先生は魔法使いブロットを気に入りました。
- ビフは部屋にいました。
キーが光り出しました。
「チップ!チップ！」とビフは叫びました。

7	Chip ran into Biff's bedroom. The magic took them inside the little house.	チップはビフのベッドルームに走っていき ました。魔法でふたりは小さなうちに入ってい きました。
8	The magic took them to Wizard Blot's house. The Wizard wanted some help. 【Wanted. Boy or girl to help. Jobs! Mixing spells. Cleaning up. Apply within.】	魔法で魔法使いブロットの家に着きました。 魔法使いは助けを求めています。 【求む お手伝いの男の子か女の子。 仕事！魔法づくり。そうじ。応募は家の中へ】
9	"Come in!" said the Wizard. "I wanted one helper, but two will do."	「入ってきて！」と魔法使いは言いました。 「欲しいのはひとりなんだが、ふたりでもよいん だ」。
10	"Come in!" said the Wizard. "You can wash up, then you can tidy up."	「入ってきて！」と魔法使いが言いました。 「洗い物をしてきて、片付けてくれていいんだ よ」。
11	Biff and Chip looked at the mess. "Don't be lazy," said the Wizard, "or I'll turn you into frogs."	ビフとチップはめちゃくちゃな様子を見渡しまし た。「さあさぼってないで。」と魔法使いは言い ました。「さもないとカエルにしてみようぞ」。
12	Biff and Chip did the washing up. "I don't like this," said Chip, "but I don't want to be a frog."	ビフとチップは洗い物をしました。 「やりたくないな。」とチップは言いました。 「でもカエルになんてなりたくないし」。
13	"I don't like ironing," said Biff, "but we don't want to be frogs."	「アイロンかけは好きじゃないわ。」とビフが言 いました。「でもカエルになんかなりたくない し」。
14	Oh no! Biff dropped a bottle. It was vanishing cream.	うわっ！ビフがビンを落としてしまいました。 それは消えるクリームでした。

15	"Help!" said Biff. "This is vanishing cream."	「助けて！」とビフが言いました。 「これは消えるクリームよ」。
16	Chip looked at his hands. "Oh no," he said. "Bits of us are vanishing."	チップが両手を見ました。 「どうしよう」とチップは言いました。 「ぼくたち部分的に消えてるよ」。
17	He rubbed his face. "Oh no!" said Biff. "Your face is vanishing."	チップは顔をこすりました。 「あらやだ！」とビフが言いました。 「チップの顔が消えてきている」。
18	A man came to the house. He climbed through the window.	男が家に入ってきました。 男は窓から入り込んできました。
19	The man didn't see Biff and Chip. He took all the Wizard's computer disks.	男はビフとチップが見えませんでした。 魔法使いのコンピューターディスクをすべて取 ってしまいました。
20	"Help! Help!" said the man. "I'm being attacked by the washing."	「助けて！助けて！」と男は言いました。 「洗濯物におそわれている」。
21	Wizard Blot came back. Biff told him about the vanishing cream.	魔法使いブロットが帰ってきました。ビフは消 えるクリームについて話しました。
22	Chip gave Wizard Blot the computer disks. The Wizard was pleased.	チップは魔法使いブロットにコンピューターディ スクを返しました。 魔法使いは喜びました。
23	It was time to go home. "Thank you," said Wizard Blot. "Do come again."	家に戻る時間になりました。「ありがとう」と魔 法使いブロットは言いました。 「ぜひ、また来てね」。
24	Biff had a little bottle. "Don't drop it," said Chip. "It's vanishing cream."	ビフはちっちゃなビンを落としてしまいました。 「落とさないで」とチップは言いました。 「消えるクリームだよ」。

After Reading

思いがけないこと続きでしたね。最後にお部屋に戻ってからビフがまた消えるクリームをこぼしてしまいました。いったいどうなるのでしょうか。

魔法使い

英語の職業や人をさす言葉の中には、男性と女性を区別するものがあります。魔法使いもそうです。魔女は witch と言いますが、男の魔法使いは wizard です。wizard は wizard at Shogi「将棋の名人」、wizard at P.E「体育の天才」などのように「天才」の意味でも使われます。しかし、この場合に女性で何かがすぐれていても、wizard を使うのです。Harry Potter も wizard です。「オズの魔法使い」は The Wizard of Oz です。

クラスで楽しもう

絵を描いて切り抜き、それらを見せながらセリフとともに言ってみます。劇というほど大掛かりなものではなく、簡単にお話を再現できてよい訓練になります。

何度も覚えるくらいに本を CD に合わせて読んだり聞いたりしてから行います。

準備するもの： 画用紙、色鉛筆・マーカーなど

- 1) p.8 から p.23 までのページを使います。
- 2) 登場人物(魔法使いブロット、ビフ、チップ、男)の 4 人を 1)のページからすべて紙にうつし、色塗りしていきます。子どもたちひとりにつきひとりのキャラクターを割り当てて、描いてもらいましょう。絵を描くのが苦手な子どもがいる場合には、トレーシングペーパーで映し絵にすると抵抗なくできます。
- 3) 描いた絵を切り取ります。トレーシングペーパーに写した場合は、別の画用紙にはってから切り取ります。
- 4) 絵を割り箸にはりつけます。

- 5) 出てくる順番にページごとに用意した絵を並べておきます。
- 6) ナレーター(セリフ以外)、魔法使いプロット、ビフ、チップ、男(セリフの部分)を言う担当を決めます。
- 7) 人数が多ければ、6)のセリフを言う人と別々に、絵を言葉に合わせて見せる担当を決めます。人数が少ない時には、セリフを言う人が絵も見せるようにします。
- 8) お話に沿って読みながら絵を見せていきます。

ことばの解説

- p.2 put on a play 劇を上演する p.4 spell 呪文・魔法
 p.9 will do ～でもよい、目的を果たす
 p.10 tidy up 片付ける tidy up the room ならば「部屋を片付ける」
 p.11 turn A into B AをBに変える
 p.12 wash up 洗って片付ける・顔や手を洗う p.14 vanishing 消える
 p.16 bits of～ 少しの～ 「ほんの少し」ならば tiny bits of という。
 p.17 rub (bed) こする p.22 be pleased (was pleased) 喜んで
 p.23 Do～ ～してね、と強調する言い方

It's Not Fair 「不公平だわ」 (368 語)

Before Reading

(表紙を見て)ビフの格好はなんともいえないものです。ドレスにスケボー、マジック・キーまで手に持っています。いったい何が起きているのでしょうか。

	It's Not Fair	不公平だわ
1	Mrs May was ill. The children had a new teacher. He was called Mr Fry.	メイ先生が病気になりました。 新しい先生が子どもたちのもとに来ました。 彼はフライ先生と言いました。
2	It was story time. The children sat in the reading corner.	お話の時間になりました。子どもたちは 読むコーナーにすわりました。
3	Mr Fry had a new story. The story was about a king. He was called King Arthur.	フライ先生は新しいお話を読みました。 王様についてでした。 王様はアーサー王と言いました。
4	"Here is King Arthur," said Mr Fry, and here are his knights. They lived a long time ago."	「アーサー王がいます」とフライ先生は言 いました。「騎士もいます。 ずっと昔に住んでいました」。
5	King Arthur had a round table. All the knights sat round it. They liked the round table.	アーサー王は円卓を使っていました。 騎士が全員囲んですわりました。 みんな円卓を気に入っていました。
6	The children did a project. The boys were knights. "It's not fair," said Biff.	子どもたちはプロジェクトにのぞみました。 男の子たちは騎士でした。 「不公平だわ」とビフが言いました。

7	Biff wanted to be a knight. “It’s not fair,” she said. “Why can’t girls be knights?”	ビフは騎士になりたがっていました。 「不公平だわ」とビフは言いました。 「なぜ女の子は騎士になれないの？」
8	Biff was in her room. She wanted to go skateboarding. But the magic key began to glow.	ビフは自分の部屋にいました。 スケボーに行こうとしていました。 しかし、マジック・キーが光り始めました。
9	“Oh blow!” said Biff. “I wanted to go skateboarding.”	「キヤー！」とビフは言いました。 「スケボーに行きたかったのに」。
10	The magic took Biff to King Arthur’s castle. It put her in a dress.	魔法でビフはアーサー王の宮殿につきました。ドレスを着せられていました。
11	“Yuk!” said Biff. “I wanted to be a knight. Knights don’t wear dresses.”	「ゲー！」とビフは言いました。「騎士になりたかったのに。騎士はドレスなんて着ないわ」。
12	Biff was cross with the magic. She saw some knights. “Can I be a knight?” she said.	ビフは魔法に怒っていました。 騎士が何人か見えました。 「騎士になれますか？」とビフは聞きました。
13	The knights laughed. “But you are a girl,” they said. “Girls can’t be knights.”	騎士たちは笑いました。 「女の子なのに。」と騎士たちは言いました。「女の子は騎士になれないのだよ」。
14	Biff got on her skateboard. “You couldn’t do that,” she said. “Now can I be a knight?”	ビフはスケボーをしてみせました。 「あなたがたにはできないでしょう」とビフは言いました。「これで騎士になれますか？」

15	The knights were amazed. “We’ll have to ask King Arthur,” said the knights	騎士たちは驚きました。 「アーサー王に聞かねばなるまい」と騎士 たちは言いました。
16	The knights took Biff to King Arthur. “This is Biff,” they said. “She wants to be a knight.”	騎士たちはビフをアーサー王の所に連れ ていきました。「こちらはビフです」と騎士 たちは言いました。「ビフは騎士になりた いのです」。
17	King Arthur laughed. “Girls can’t be knights,” he said. “Why not?” asked Biff.	アーサー王は笑いました。 「女の子は騎士にはなれまい」とアーサ ー王は言いました。「なぜダメなのです か？」とビフは尋ねました。
18	King Arthur called a meeting but the knights argued.	アーサー王は会議を招集しましたが、騎 士たちは議論になりました。
19	No one wanted to sit down. They all wanted to sit near King Arthur.	だれもすわりたがりませんでした。 みんなアーサー王の近くにすわりたかつ たのです。
20	Biff had a good idea. She spoke to King Arthur. “Get a round table,” she said.	ビフにはよい考えがありました。ビフはア ーサー王に話しました。 「円卓にしたらどうですか」とビフは言い ました。
21	The knights liked the round table. “It’s brilliant!” they said. “Now we won’t argue.”	騎士たちは円卓が気に入りました。 「すばらしい！」と騎士たちは言いまし た。「もう議論なくてよいのだな」。
22	The knights sat round the table. “Biff’s idea is great,” said one. “She should be a knight!”	騎士たちは円卓にすわりました。 「ビフの考えはすばらしい」ある騎士が言 いました。「ビフは騎士になるべきだ！」

- | | | |
|----|--|--|
| 23 | <p>“So we all agree,” said King Arthur. “Biff can be a knight.”</p> <p>But just then the key glowed.</p> | <p>「では全員賛成ですね」とアーサー王は言いました。「ビフは騎士になることができます。」するとちょうどその時、鍵が光りました。</p> |
| 24 | <p>Biff was cross with the magic key. “It glowed just as I was about to be made a knight,”</p> <p>she said. “It’s not fair.”</p> | <p>ビフはマジックキーに怒りました。</p> <p>「鍵はちょうどわたしが騎士になれるという時に光ったのよ。</p> <p>「そんなの不公平よ。」</p> |

After Reading

積極的に意思表示するビフは、リッパです。どのように自分の考えを述べていくのか、とても参考になります。円卓会議で知られているアーサー王についても、読んでいくうちにもっともっと知りたくなりますね。

アーサー王

ORT が描かれるときには、まずイラストから描きはじめるそうです。「多聴多読マガジン」のインタビューによれば、アレックス・ブリクタ氏がイラストを描き、ロドリック・ハント氏が物語の構想を練るのです。特に歴史ものを書くときには、歴史的に正しく描くように調査をしていくそうです。アーサー王は実在の人物ではないと推察されていますが、『ブリテン列王記』では円卓の騎士が実際に *It's Not Fair* p.22-23 にあるように描かれています。

クラスで楽しもう

欧米では *fair* かどうかというのはとても気にすることのようです。会話でも “That’s not fair.” “そんなのずい(不公平)” というフレーズをよく耳にします。*It’s Not Fair* では、男女同権について問われています。教室でも *fair* とは何かについて考えてみましょう。

- 1) *It's Not Fair* の本の中で、ビフが not fair だと思ったことがわかる文章にしるしをします。それらをホワイトボードに書き出します。

例:

p.6 The boys were knights.

p.7 Biff wanted to be a knight. Why can't girls be knights?

p.13, p.17 Girls can't be knights.

- 2) 次に何が問題になっているのかを考えます。女の子だから騎士になれないと語られていることがわかりますね。
- 3) その原因・理由を考えてみます。

会話例: 指導者 Why do you think girls can't be knights?

(なぜ女の子は騎士になれないと考えますか?)

生徒 Because most people think boys are stronger than girls.

(大抵の人が男の子の方が女の子より強いと考えているから。)

I think that girls had other things to do.

(女の子は他にすることがあったから。)

- 4) ビフが騎士になれると言われる過程を見てみましょう。p.17 “Why not?” “なぜダメなのですか?”と、きちんと自分で理由を聞いています。p.20 では “Get a round table,” “円卓にしたらどうですか?”と、適切な提案を積極的にしています。p.22 では、その考えが認められて、ついに “She should be a knight.” “ビフは騎士になるべきだ!”と一人の心を動かし、ついにアーサー王に “Biff can be a knight.” “ビフは騎士になることができます。”とまで言わせることに成功するのです。
- 5) 現代にある差別に対して、考察を行うことができる本書ですが、自分の考えをあきらめずに述べていくお手本にもなります。会話文のやりとりを丁寧に追っていくと、適切な自己表現を通して成功を導く道が見えてきます。
- 6) イラストではビフの表情がページごとにちがって描かれています。気持ちがそこには集約されています。まとめとして、CDを流しながらビフの表情に注目して文章を読んでいきましょう。

ことばの解説

p.3 King Arthur アーサー王。「アーサー王物語」はケルト人の伝説である中世の騎士文学の代表作である。「ブリトン列王伝」(1136 年頃)では、円卓の騎士の物語を中心に戦いなどが描かれている。

p.5 round table 円卓 p.6 It's not fair. 「不公平だ。」

p.7 Why can't ~ ~できないの(できればよいのに) p.10 castle お城

p.11 yuk げーっ(嫌いなものや不愉快なものに対して言う)

p.12 cross 怒る・反対する

p.17 Why not? なぜ? ここでは Why can't girls be knights?の意味で、「どうして女の子は騎士になれないの?」

p.18 call a meeting 会議を招集する argue(d) 議論する

p.22 should すべき p.23 agree 賛成する

p.24 just as ちょうど~する時に、とたん was about to ~しそうだった

【編集部より】

以前の版ではビフが女の子だからという理由で騎士にはなれないため「It's Not Fair」という結末だったのですが、昨今「男女平等」が叫ばれる観点からエンディングが変更され「It's Not Fair」の使われ方が変わりました。それに伴い本文 p.22 以降の文章も一部変更されています。

The Great Race 「すごいレース」 (324 語)

Before Reading

ものすごいスピードで車が進んでいきますね。どんなレースになるのでしょうか。

The Great Race	すごいレース
1 Gran wanted a new car. Biff and Chip were sad. They liked Gran's old car.	おばあちゃんは新しい車をほしがっていました。 ビフとチップは悲しく思いました。 おばあちゃんの古い車が好きだったのです。
2 Gran liked this car. Biff was worried. The car was too fast for Gran.	おばあちゃんはこの車が気に入りました。 ビフは心配でした。 車はおばあちゃんにはスピードが出すぎます。
3 Gran bought the fast car. She drove it home. "Oh no!" said Dad.	おばあちゃんはスポーツカーを買いました。 家まで乗って帰りました。 「なんてことだ！」とパパが言いました。
4 Mum was cross with Gran. "That car is too fast," she said. Gran was upset.	ママはおばあちゃんに怒っていました。 「あの車は速すぎるでしょ」とママは言いました。 おばあちゃんは落ち込みました。
5 The magic key glowed. The magic took Biff and Chip. It took Gran, too.	マジック・キーが光りました。 魔法にビフとチップがかかりました。 おばあちゃんもでした。
6 The magic took them to a race. "Come on," said Gran. "This is my new car."	まほうでレースに来ました。 「おいで。」とおばあちゃんが言いました。 「これが私の新しい車よ」。

7	<p>"Oh Gran!" said Biff.</p> <p>"What would Mum say?"</p> <p>"Never mind Mum," said Gran.</p>	<p>「だめよ！」とビフが言いました。</p> <p>「何てママが言うことかしら？」</p> <p>「気にしないの」とおばあちゃんが言いました。</p>
8	<p>Gran found a map.</p> <p>They all looked at it.</p>	<p>おばあちゃんは地図を見つけました。</p> <p>みんなでそれを見ました。</p>
9	<p>A man looked at Gran.</p> <p>He was a bad man.</p> <p>He was called the Baron.</p>	<p>男の人がおばあちゃんを見ていました。</p> <p>その人は悪いやつでした。</p> <p>バロンと呼ばれていました。</p>
10	<p>The children looked at the Baron. The Baron looked at the children.</p> <p>"Ha!" said the Baron.</p> <p>"You won't win."</p>	<p>子どもたちはバロンを見ました。</p> <p>バロンは子どもたちを見ました。</p> <p>「ふん！」とバロンは言いました。</p> <p>「勝てるまい」。</p>
11	<p>A man changed the signpost.</p> <p>"Ha! Ha!" said the man.</p> <p>"Now the Baron will win."</p>	<p>男の人が標識を変えました。</p> <p>「は！は！」と男の人は言いました。</p> <p>「これでバロン様が勝つだろう」。</p>
12	<p>The map blew away.</p> <p>"Which way?" asked Gran.</p> <p>Chip didn't know.</p>	<p>地図が吹き飛んでしまいました。</p> <p>「どっちでしょう？」おばあさんは聞きました。</p> <p>チップにはわかりませんでした。</p>
13	<p>They didn't see the signpost.</p> <p>Gran turned left.</p> <p>"Grrr" said the man.</p>	<p>みんなは標識を見ませんでした。</p> <p>おばあちゃんは左に曲がりました。</p> <p>「うー」と男の人はいいました。</p>
14	<p>They came to the mountains.</p> <p>"Slow down," shouted Biff.</p> <p>"No. This is fun," said Gran.</p>	<p>山に来ました。</p> <p>「スピードを落として」とビフが叫びました。</p> <p>「いいえ。楽しいもの」とおばあちゃんと言いました。</p>

15	The Baron put oil on the road. “That will do it,” he said. “That will stop them.”	バロンが道路に灯油をまきました。 「これでよし」とバロンは言いました。 「これでかれらを止められる」。
16	The car skidded on the oil. It crashed through the fence and went down the mountain	車は油で横滑りしました。 フェンスをつきやぶり、山の下に落ちてしまいました。
17	“Hold on,” shouted Gran. “Oh no!” shouted Biff. “Oh help!” shouted Chip.	「つかまって」とおばあちゃんは叫びました。 「きゃー！」とビフが叫びました。 「助けて！」とチップが叫びました。
18	The Baron was behind. Gran was in front. She was winning the race.	バロンが後ろにいました。 おばあちゃんが前にいました。 おばあちゃんが勝っていました。
19	Biff looked behind. “Come on Gran,” she shouted.	ビフが振り返ってみました。 「行くわよ、おばあちゃん」とビフは言いました。
20	“Which way?” called Gran. Chip didn’t know. Gran turned on to a bridge.	「どっち？」とおばあちゃんが叫びました。 チップにはわかりませんでした。 おばあちゃんは橋に向かいました。
21	The bridge was dangerous. “Not this way!” called Chip.	橋は危険でした。 「こっちじゃないよ！」チップが叫びました。
22	The bridge broke. The Baron’s car crashed into the river.	橋がこわれてしまいました。バロンの車は川 に落ちてしまいました。
23	Gran won the race. “Hooray!” called Biff and Chip. The magic key glowed.	おばあちゃんがレースに勝ちました。 「やったー！」とビフとチップが叫びました。 マジック・キーが光りました。

24 Gran took the fast car back.
She bought a little car.
"This one will do," she said.

おばあちゃんはスポーツカーを返しました。
おばあちゃんはちいさな車を買いました。
「これで十分」とおばあちゃんは言いました。

After Reading

おばあさんは、全くうろたえる事なく、果敢にレースに挑むようなパワーを秘めています。Ha ! Ha!, Grrr!, Hooray!など CD を聞きながら言う練習をしてみてください。CD を聞きながら、会話の部分だけに集中してイントネーションやリズムをまねしながら言ってみると、言いなれてきて実際の場面にも応用して使えるようになります。

will do

「間に合う・役に立つ」というときには、~will do で表せます。これが反対に It won't do. だと、「~は無理だ・よくない」となります。That will do. ならば「それで間に合う」、This won't do. は「それでは無理だ」ということになります。p.15 では That will do it. とバロンが言っています。灯油でおばあちゃんの車が止まると思っているわけです。

クラスで楽しもう

The Great Race では、冒険心あふれるおばあさんが悪者にもめげずレースで優勝を勝ち取ります。お話の中から質問を作って遊ぶアクティビティーをご紹介します。これは質問を作ろうとすることでより深く読むことと、アクティビティーを通し発音チェックやどの程度声に出して読めるかを確かめる事が目的です。

準備するもの： カードに一枚ずつ、Who What Which Where When How と書き 6 枚用意します。

1) 用意したカードから一枚生徒が引きます。その疑問詞を使ってひとりずつ質問を

作り書いておきます。いくつでも作ります。人に見せないようにします。

たとえば、Who のカードで作ることになった場合だと、p.11 A man changed the signpost.という文章から、Who changed the signpost? という質問が作れます。

- 2) 順番に本から文章をひとつ言っていきます。本のどの一文を言ってもよいのですが、誰かが作った問題の答えとなっている文章を読んだらその人は負けです。作った人は1ポイント得ます。
- 3) 一度負けてしまってもそのまま文章読みを続けます。
- 4) ある程度質問があたってしまったら終了します。
- 5) 最後にまとめの意味で、一回 CD に合わせてみんなで本を読んでおきます。質問を作った答えの文章の所で、手をあげてもらいます。

ことばの解説

p.2 worried 心配した・不安な p.4 upset 動揺させる・おろおろする

p.5 glow (ed) 光る

p.9 Baron ここでは固有名詞ですが、baron には男爵・大実業家(影響力のあるひと)などの意味があります。

p.10 Ha 驚き・喜び・疑う気持ちなどを表すことばで、「へえ」、「おや」などにあたる。

p.11 signpost 標識・指標

p.13 Grrr うなり声。不機嫌でうなるときや犬のうなり声をさす。r の数によってうなり声の長さが変わる。

p.16 skid 横すべりする crash (ed) 衝突する

p.17 Hold on つかまる・しがみつく。駅やデパートなどで Hold on to the handrail. 「手すりにおつかまりください。」というときにもアナウンスで聞かれます。電話で「お待ちください」というときにも Hold on please. といいますね。

p.24 will do 役に立つ

Monster Mistake 「いつわりのモンスター」 (334 語)

Before Reading

広々した湖を驚いた表情で指差すチップ。ビフも見入っています。湖に浮かぶものは
いったい…？

A Monster Mistake

- 1 Mum and Gran went on holiday. They went to Scotland. They took the children
- 2 They stayed in a cottage. The cottage was by a lake. It had a boat
- 3 “I like it here,” said Biff. “We can go sailing.” “And fishing,” said Kipper.
- 4 Everyone had a good time. Biff and Kipper went fishing.
- 5 Gran and Chip painted a picture. Mum sat in the sun and read a book. “This is fun,” she said.
- 6 Everyone looked at Gran’s picture. “Oh Gran!” said Chip. She had painted a monster.

いつわりのモンスター

ママとおばあちゃんは休暇をとりました。
ふたりはスコットランドにいきました。
子どもたちも連れていきました。
みんなはコテージに泊まりました。
コテージは湖畔にありました。
ボートもついていました。
「ここが好きだわ」とビフが言いました。
「ヨット乗りもできるわ」
「釣りもね」とキッパーが言いました。
みんなが楽しみました。
ビフとキッパーは釣りをしました。
おばあちゃんとチップは絵を描きました。
ママはおひさまを浴びて腰かけて本を読んでいた。「これは楽しいわ」とママは言いました。
みんながおばあちゃんの絵を見ました。
「やだ！ おばあちゃん」とチップが言いました。
彼女はモンスターを描いていたのでした。

7	Kipper looked at the monster. Gran laughed. “There’s no such thing,” she said.	キッパーはモンスターを見ました。 おばあちゃんは笑いました。 「そんなものないわよ」とおばあちゃんと言いました。
8	Mum went shopping. She took Kipper. Biff and Chip stayed with Gran.	ママは買い物に行きました。 ママはキッパーを連れていきました。 ビフとチップはおばあちゃんに残りました。
9	Mum looked at the shops. “Let’s get Dad a postcard,” she said.	ママはお店を見て歩きました。 「パパにははがきを書かなくてはね」とママが言いました。
10	Kipper went into a shop. “I want a monster for me and a postcard for Dad,” he said.	キッパーはお店に入っていました。 「僕はモンスターがほしくてパパにははがきを買いたいんだ」とキッパーが言いました。
11	Kipper posted the card to Dad. “I wish Dad was here,” he said.	キッパーはパパに絵はがきを投函しました。 「パパがここにいたらなあ」とキッパーは言いました。
12	Gran wanted to play a joke on Mum. “Let’s make a monster,” she said.	おばあちゃんはママをからかおうとしていました。「モンスターを作ろうよ」とおばあちゃんと言いました。
13	“I don’t get it,” said Biff. “Wait and see,” said Gran.	「よくわからないわ」とビフが答えました。 「見ていればわかるわ」とおばあちゃんと言いました。
14	They put the monster in the lake. It made the children laugh. “It looks brilliant!” said Chip	みんなはモンスターを湖に入れました。 それで子どもたちは笑いました。 「すごくいいよ！」とチップが言いました。

15	<p>“What a good joke,” said Biff.</p> <p>“What a good joke to play on Mum.”</p>	<p>「なんてよい出来ばえなんだろう」とビフが言いました。「ママをからかうなんてすごいね」</p>
16	<p>Mum and Kipper came back.</p> <p>Gran pulled the rope.</p> <p>The monster went across the lake.</p>	<p>ママとキッパーが戻ってきました。</p> <p>おばあちゃんはロープを引っ張りました。</p> <p>モンスターが湖を横切りました。</p>
17	<p>“A real monster,” said Kipper.</p> <p>“I don’t believe it,” said Mum.</p> <p>“There’s no such thing.”</p>	<p>「本物のモンスターだ」とキッパーが言いました。「信じないわよ」とママが言いました。</p> <p>「そんなもんいないもの」</p>
18	<p>Some people saw Gran’s monster. They were amazed.</p> <p>They took photographs.</p>	<p>おばあちゃんのモンスターを見た人がいました。すごく驚きました。</p> <p>写真をとりました。</p>
19	<p>The children watched television.</p> <p>“Gran’s monster!” said Chip.</p> <p>“Oh no!” groaned Biff.</p>	<p>子どもたちはテレビを見ていました。</p> <p>「おばあちゃんのモンスターだ！」とチップが言いました。</p> <p>「どうしよう！」とビフがうなりました。</p>
20	<p>The next day lots of people came.</p> <p>There were lots and lots and lots of people.</p>	<p>翌日たくさんの人がやってきました。</p> <p>いっぱい、いっぱいやってきました。</p> <p>どんどん、どんどん、とてもたくさんの人がきました。</p>
21	<p>They wanted to see the monster.</p> <p>“Oh Gran!” said Mum.</p> <p>“Now look what you’ve done.”</p>	<p>人々はモンスターを見たくてきました。</p> <p>「おばあちゃん！」とママが言いました。</p> <p>「自分のやってしまったことがわかるの」</p>

22	Gran told everyone about the monster. "It was just a joke," she said.	おばあちゃんはみんなにモンスターについて説明しました。 「ほんの冗談だったのです」とおばあちゃんは言いました。
23	A man from the television came. Mum was cross with Gran but everyone laughed.	テレビ局の人もきました。 ママはおばあちゃんを怒りましたが、みんなは笑いました。
24	Gran was sorry. "A monster?" she said. "There is no such thing."	おばあちゃんは反省しました。 「モンスター？」とおばあちゃんは言いました。 「そんなもんないわよ」。

After Reading

おばあさんになっても遊び心いっぱい、ママにも怒られてしまうおばあちゃんですが、大騒ぎになった時に素直にあやまれたのはまた勇気があります。会話には英語らしい表現があふれています。そのまま覚えていきましょう。

言えそうで思いつかない表現

日本語で考えたセリフを英語に直していくのではなく、絵本を読んだときにはふとした表現を CD の音に合わせて記憶していくようにしていきます。覚えておくといざというときに、口から出やすくなるようです。

p.5 This is fun. 「楽しいな」という時に言います。

p.7 There's no such thing. 「そんな(うまい・馬鹿な)話はない」 Mary said no such thing. メアリーはそんなことを言っていません。などように使います。

p.11 I wish Dad was here. 「パパがここにいたならよかったのに(でもいない)」という文章で仮定法といわれるものです。

p.13 I don't get it. 「わからない」get にはいろいろな意味がありますが、ここでは理解するという意味で使われています。

p.14 It looks brilliant! 「すばらしく見える！」brilliant はイギリス英語で、とてもすてきだというときに言います。

クラスで楽しもう

お話を楽しんだらそれを友達に伝えるということをしていきます。

物語を読んだらその要旨をまとめていくのが目的です。英語のレベルに応じてまとめ方を変えていきます。

- 1) お話の流れを覚えられるくらい何回か読みます。まずは CD を聞きながら、次に黙読、そして今度はシャドーイング(聞こえた所だけ CD に合わせてくりかえす)などをしながら試してください。
- 2) お話を覚えたら、話の内容を友達に伝えていきます。ペアーを作ってひとりが話してもうひとりが聞きます。文章を見ないと自分で文章を作れない場合には、見て話していきます。その場合には、文章のどこにそのページの出来事が書かれているのかを指導者と一緒に考えます。はじめの文章を言えばお話の要旨が伝わる場合が多いです。スラスラ自分のことばで伝えられる場合には、絵だけを見て伝えていきます。
- 3) ペアーで役割を交代して、聞いていた人と話していた人がいれかわります。

ことばの解説

p.1 holiday 休暇・祝日 go on holiday 休暇旅行に行く

p.2 cottage 小さな家・コテージ p.3 go sailing ヨット乗りにいく

p.13 get it わかる wait and see 成り行きを見守る

p.14 brilliant 輝く・優秀な・すばらしい(英)

p.16 across 向こうへ・横切って p.17 believe 信じる p.19 groan うめく・うなる

本文著者 宮下いづみ

Eunice English Tutorial 主宰

SEG 英語多読コース講師

東京音楽大学付属高校非常勤講師

Oxford Reading Tree Level 5 More Stories B

- ① The New Baby [362 語]
- ② Camping Adventure [335 語]
- ③ Scarecrows [318 語]
- ④ Noah's Ark Adventure [370 語]
- ⑤ A New Classroom [328 語]
- ⑥ Mum to the Rescue [352 語]

The New Baby 「生まれたばかりの赤ちゃん」 (362 語)

Before Reading

表紙には生まれたばかりの赤ちゃん、赤ちゃん用品が写っています。ウェットティッシュはワイプ “Wipes” と言います。

	The New Baby	生まれたばかりの赤ちゃん
1	Jo had some good news. She was expecting a baby. “What good news!” said everyone.	ジョーにはよい知らせがありました。 ジョーには赤ちゃんが生まれるのです。「なんてよいニュース！」とみんなが言いました。
2	Wilma’s mum found the old buggy. “Oh look!” said Wilma’s dad. “Wilf had it when he was a baby.”	ウィルマは古いベビーカーを見つけました。 「ねえみてごらん！」とウィルマのパパが言いました。「ウィルフがあかちゃんころに使っていたよ」。
3	The buggy looked a bit scruffy. A wheel had come off. “We can do it up,” said Wilma’s mum.	ベビーカーはちょっと汚れていました。 車輪がとれてしまっていました。 「直せるわ」とウィルマのママが言いました。
4	Wilma told Biff and Chip. “Jo is expecting a baby,” she said. “What good news!” said Chip.	ウィルマがビフとチップに言いました。 「ジョーには赤ちゃんが生まれるのよ」とウィルマは言いました。「なんてよいニュースなんだ！」とチップは言いました。

5	<p>Biff and Chip went home.</p> <p>“Jo is expecting a baby,” said Chip.</p> <p>“What good news!” said Mum.</p>	<p>ビフとチップは家に戻りました。</p> <p>「ジョーに赤ちゃんが生まれるんだって」とチップが言いました。</p> <p>「なんてよいニュースなの！」とママが言いました。</p>
6	<p>Dad found the old cot.</p> <p>“Oh look!” said Mum.</p> <p>“Kipper had it when he was a baby.”</p>	<p>パパは古いベビーベッドを見つけました。</p> <p>「ねえ、見て！」とママが言いました。</p> <p>「キッパーがあかちゃんの頃のベッドよ」。</p>
7	<p>The cot looked a bit scruffy.</p> <p>It needed a new mattress.</p> <p>“We can do it up,” said Dad.</p>	<p>ベビーベッドは少しくす汚れていました。</p> <p>新しいマットレスが必要でした。</p> <p>「なんとかなるよ」とパパが言いました。</p>
8	<p>Biff and Chip told Kipper.</p> <p>“Jo is expecting a baby,” they said.</p> <p>“That’s brilliant!” said Kipper.</p>	<p>ビフとチップがキッパーに言いました。</p> <p>「ジョーにはあかちゃんが生まれるんだ」と二人は言いました。</p> <p>「なんてすてきなんだろう！」とキッパーが言いました。</p>
9	<p>Kipper found an old toy rabbit.</p> <p>It looked a bit scruffy.</p> <p>“Can we do it up?” he asked.</p>	<p>キッパーは古いうさぎのおもちゃを見つけました。ちょっと汚れていました。</p> <p>「きれいになるかな？」とキッパーは聞きました。</p>
10	<p>Kipper was in Miss Green’s class. He told Miss Green about Jo’s baby.</p> <p>“How exciting!” said Miss Green.</p>	<p>キッパーはグリーン先生のクラスにいました。キッパーはグリーン先生にジョーのあかちゃんについて言いました。</p> <p>「わくわくするわね！」とグリーン先生は言いました。</p>

11	Kipper looked puzzled. “When will Jo’s baby come?” he asked.	キッパーはどうなんだろうという顔をして いました。「いつジョーのあかちゃんは生 まれるの？」とキッパーは聞きました。
12	Miss Green told the children about babies.	グリーン先生は子どもたちにあかちゃん についてお話しました。
13	Mums and dads came to school. They told the children about babies too.	ママやパパたちが学校にやってきました。 子どもたちにあかちゃんの話をしました。
14	Kipper played with the baby. He gave it a rattle. The baby made a funny noise.	キッパーがあかちゃんと遊びました。 ガラガラをやってみました。 あかちゃんのはたのしそうに声を出しまし た。
15	The children made a book. The book was about babies.	子どもたちは本を作りました。 本はあかちゃんについてでした。
16	Kipper gave Jo the book. Biff and Chip gave Jo the cot. Jo was pleased.	キッパーはジョーに本を渡しました。 ビフとチップはジョーにベビーベッドをあ げました。ジョーは喜びました。
17	Wilf wanted the baby to be a girl. Wilma wanted it to be a boy so Wilf made a big chart.	ウィルフはあかちゃんが女の子だとい いと思いました。 ウィルマは男の子だとよいとおもったの で、大きな表を作りました。
18	“The baby is coming,” said Jo. “It’s time to go.” “How exciting,” said Wilf.	「あかちゃんが生まれるわ」とジョーが言 いました。「行かなくちゃ」「なんてときど きするんだろう」とウィルフがいました。

19	<p>Wilma called her mum.</p> <p>“Jo’s baby is coming,” she called.</p> <p>“How exciting!” said Wilma’s mum.</p>	<p>ウィルマがママを呼びに行きました。</p> <p>「ジョーのあかちゃんが生まれそうよ」と叫びました。</p> <p>「なんてわくわくするんでしょう！」とウィルマのママは言いました。</p>
20	<p>Jo went to the hospital.</p> <p>She went in the car.</p> <p>“Good luck,” called Wilma’s mum.</p>	<p>ジョーは病院に行きました。</p> <p>ジョーは車に乗りました。</p> <p>「がんばって」とウィルマのママが声をかけました。</p>
21	<p>Jo was in hospital.</p> <p>She had a baby girl.</p> <p>“She is called Vicky,” said Jo.</p>	<p>ジョーは病院にいました。</p> <p>女の子のあかちゃんが生まれました。</p> <p>「名前はビッキーよ」とジョーが言いました。</p>
22	<p>Jo brought Vicky home.</p> <p>Everyone wanted to see the new baby.</p>	<p>ジョーはビッキーを連れて帰りました。</p> <p>みんな生まれたてのあかちゃんを見たがっていました。</p>
23	<p>Jo looked at Kipper.</p> <p>“You know about babies,” she said.</p> <p>“Do you want to help?”</p>	<p>ジョーはキッパーを見ました。</p> <p>「あかちゃんについてわかっているのでしょう」と言いました。</p> <p>「手伝いたい？」</p>
24	<p>Kipper looked at Vicky.</p> <p>“No, thank you,” said Kipper</p>	<p>キッパーがビッキーを見ました。</p> <p>「結構です」とキッパーが言いました。</p>

After Reading

12 ページと 13 ページを開いてみてください。グリーン先生のお話に子どもたちは聞き入っています。よく見てみると様々な肌の色や髪の色などがちがう子どもたちが描かれています。欧米では日本とは異なり、いろいろな人種がいることが意識されています。欧米の絵本を見ると、意図的に多岐にわたる人種を描いているのが伝わってくる場合があります。

Vicky

ジョーには女の子が生まれてきます。名前は Vicky と言いますが、それは Victoria を略している場合があります。語源はラテン語で Victory「勝利」や conqueror「勝者」の意味です。

クラスで楽しもう

英語は名詞を次々と代名詞に言い換えていきます。ここでは、代名詞が何を指しているのかを考えて読んでいくと、物語の筋がきちんと追えます。文字を書く練習にもなります。

準備するもの： 名刺大の白いカード 10 枚×人数分
えんぴつ・マジック・ボールペンなど書くもの

- 1) 絵本の代名詞にマークします。遊びやすいようにとりあえず人間を言い換えているものだけを選びます。
- 2) 何を言い換えているのか、もとの言葉を探します。
- 3) 代名詞に言い換えられている名詞を、カードにひとつずつ書き出していきます。
Jo, Wilma's mum, Wilma's dad, Wilma, Biff, Chip, Mum, Dad, Kipper, など。
- 4) 絵本を読みながら、代名詞の所でさしていると思うものを 3) のカードから選びます。
子どもたち全員に一斉にあげてもらうと、たとえまちがえていても目立ちません。

ことばの解説

p.1 expect (ing) expecting は「妊娠している・出産を控えている」の意味がある。

expect は「期待する・予期する」。

p.3 scruffy 薄汚い・みすぼらしい do it up うまくやる

p.6 cot ベビーベッド(英)、アメリカでは crib という。

p.8 brilliant すばらしい・見事な p.9 a bit 少し

p.10 exciting 興奮させる・おもしろい p.11 puzzled 困った・困惑した

Camping Adventure 「キャンプで冒険」 (335 語)

Before Reading

ウィルマー家は、ランプを照らし折りたたみのテーブルで楽しそうに話をしています。キャンプに行くとどんなことが待ち受けているのでしょうか。

Camping Adventure	キャンプで冒険
1 Mum and Dad went camping. They took the children. They went to a farm.	ママとパパはキャンプに行きました。 子どもたちも連れていきました。 農場に行きました。
2 Mum and Dad had a new tent. They put it up. Wilf helped.	ママとパパは新しいテントを持っていきま した。テントを張りました。 ウィルフも助けました。
3 Wilma got some water. "I like it here", she said. "I like camping."	ウィルマは水をくんできました。 「ここが気に入ったわ」とウィルマが言いま した。「キャンプって好きだわ」。
4 Mr Jones was the farmer. He had to milk the cows. "Come and watch," he said.	ジョーンズさんは農夫でした。 ジョーンズさんは牛のミルクをしぼっていま した。「見にきてごらん」とジョーンズさんは 言いました。
5 "What a lot of cows!" said Wilf. Mr Jones laughed. "We milk them every day," he said.	「なんてたくさんの牛がいるんだ！」とウィル フが言いました。ジョーンズさんは笑いま した。「おじさんたちは毎日ミルクをしぼるの だよ」とジョーンズさんは言いました。

6	Mum wanted some milk. She went to the farm house. "I want some eggs too," said Mum.	ママはミルクを飲みたくなりました。 ママは農家に向かっていきました。 「卵もほしいわ」とママは言いました。
7	Mrs Jones was expecting a baby. She was expecting it soon. "It may come today," she said.	ジョーンズさんの奥さんは妊娠中でした。 もうすぐあかちゃん生まれるのでした。 「今日かもしれません」とジョーンズさんの奥さんは言いました。
8	Dad cooked supper. "I like it here," said Wilf. "It's fun in this tent."	パパが夕食を作りました。 「ここが気に入ったよ」とウィルフが言いました。「このテントは楽しいよ」。
9	Everyone went to bed but there was a storm. Nobody could sleep.	みんながベッドに入りましたが、嵐になってしまいました。 だれも眠れませんでした。
10	The wind blew. Everyone had to get up.	風が吹きました。 みんなは起きなければならなくなりました。
11	The wind blew the tent down. They had to go to the farmhouse.	風でテントが吹きとびました。 農家に行かなければならなくなりました。
12	Mr Jones called Mum. "The baby is coming," he said.	ジョーンズさんはママを呼びました。 「あかちゃんが生まれそうだ」とジョーンズさんは言いました。
13	Mrs Jones had to go to hospital. She got in the car. Mum helped her.	ジョーンズさんの奥さんは病院に行かないとなりませんでした。車に乗り込みました。 ママが奥さんを手伝いました。

14	The storm got worse. The wind blew and blew. The wind blew a big tree down.	嵐がひどくなりました。 風がビュンビュン吹きます。 風は大きな木をなぎ倒しました。
15	The car couldn't get past. Mr and Mrs Jones went back to the house.	車が通れなくなっていました。 ジョーンズ夫妻は家に戻りました。
16	Mr Jones called for help. He called the hospital. "A helicopter's coming," he said.	ジョーンズさんは助けを呼びました。 病院に電話をしてみました。 「ヘリコプターが来るよ」とジョーンズさんは言いました。
17	Mr Jones pointed to a field. "The helicopter can land there," he said.	ジョーンズさんは農場を指差しました。 「ヘリコプターはここに着けるよ」とジョーンズさんが言いました。
18	Mr Jones got some bags. The children helped. They got some big stones.	ジョーンズさんが袋を運んできました。 子どもたちも手伝いました。 大きな石も集めました。
19	They made a big cross out of the bags. They put stones on the bags.	みんなで大きな十字架を袋で作りました。 石を袋の上に置きました。
20	The helicopter came. It landed near the cross. "At last!" said Mr Jones.	ヘリコプターが来ました。 十字架の付近に着陸しました。 「ついにきたぞ！」とジョーンズさんが言いました。
21	There was a doctor in the helicopter. "Come on!" said Mr Jones.	ヘリコプターには医師が乗っていました。 「さあ！」とジョーンズさんは言いました。

- | | | |
|----|---|---|
| 22 | The doctor ran to the house but Mum came to the door.
She was laughing. | 医師は家に走ってきましたが、ママが戸口に出してきました。
ママは笑っています。 |
| 23 | "Too late!" said Mum.
"Mrs Jones has had the baby.
She's had a baby boy." | 「間に合わなかったわ」とママは言いました。「ジョーンズさんの奥さんはもう赤ちゃんを産んでしまったの。男の赤ちゃんでした」。 |
| 24 | Everyone looked at the baby.
"He's very sweet," said Wilma.
"Will he like camping?" | みんなは赤ちゃんを見ました。
「とてもかわいいわ！」とウィルマが言いました。「キャンプが好きになるかな？」 |

After Reading

335 語のお話になるとまとまった長さがあるので、全体の流れをしっかりと把握しながら楽しんでいく読み方の練習になります。動詞は camping, expecting, coming, laughing のように～ing の形になっている場合と、took, went, had, got, laughed, wanted, cooked などのように過去形になっている場合があります。

Expecting

expecting という「予期している・期待している」という意味です。ここでは 7 ページに Mrs Jones was expecting a baby. 「ジョーンズさんには赤ちゃんが生まれるのでした」とあるように、あかちゃんが生まれることを expect しています。expecting は、a baby と言わなくても「妊娠している」の意味があります。男の赤ちゃんは p.23 にあるように a baby boy, 女の子だったら a baby girl といいます。胎児のときには性別がわからないので何というのでしょうか。答えは、p.7 She was expecting it soon.とあります。

クラスで楽しもう

教室でこの本を使うときに、動詞の部分を目的語まで一緒に動作で覚えてしまうと簡単に覚えられ、語順も身につけられます。他動詞がどういうものかとかいう文法の概念は教えなくても、自然に何をどうするということがわかるのがこの方法です。

1) ジェスチャーができそうな部分の文章に線を引きます。

p.1 went camping/ went to a farm

p.2 had a new tent

p.3 got some water

p.4 milk the cow

p.6 wanted some milk/ want some eggs

p.7 was expecting a baby

p.8 cooked supper

p.9 went to sleep

p.11 blew the tent down, had to go to the farmhouse

p.13 go to hospital, got in the car

p.14 blew a big tree down

p.16 called for help

p.17 pointed to a field

p.18 got some bags/ got some big stones

p.19 made a big cross, put stones

p.22 ran to the house

p.23 had a baby boy

2) ジェスチャーを練習します。1) のフレーズを言いながらみんなでやってみます。

3) ジェスチャーを覚えたら、今度は指導者がフレーズを言い、子どもたちにジェスチャーをしてもらいます。

4) フレーズを言えるようならば、次に先生がジェスチャーをして子どもたちにフレーズを言ってもらいましょう。

Scarecrows 「かかし」 (318 語)

Before Reading

かかしが三角の鼻をつけて立っているのをビフとチップが話しています。男のかかしなのでしょうか。髪は長めです。

Scarecrows

- 1 Biff and Chip had a little garden.
They planted seed and they put
in plants.
- 2 The birds liked the garden.
They ate the seeds and pecked
the plants.
- 3 Biff was cross.
“Look at the birds,” she said.
“Go away! Go away!”
- 4 Biff and Chip had an idea.
“Let’s make a scarecrow,” they
said. ‘What a good idea,’ said
Mum.
- 5 They got some old clothes and
made the scarecrow’s body.
Mum helped them.

かかし

ビフとチップには小さな庭がありました。
ビフとチップはタネをまき、植物を植えました。
鳥は庭を気に入りました。
鳥はタネを食べて、植物をつつきました。
ビフは怒りました。
「鳥を見てよ」とビフは言いました。
「あっちにいて！ あっちにいて！」
ビフとチップには考えがありました。
「かかしを作ろう」と二人は言いました。
「なんてよい考えなの」とママが言いました。
ビフとチップは古着を集めてかかしの胴体を作りました。
ママは手伝いました。

6	Biff got a bag. Chip painted a face on it. Mum made the scarecrow's hair.	ビフは大きな袋を持ってきました。 チップはその袋に顔を描きました。 ママはかかしの髪の毛を作りました。
7	Chip wanted the scarecrow to be a boy. He called it Fred.	チップはかかしを男の子にしたいと思いました。チップはかかしをフレッドと名づけました。
8	Biff wanted it to be a girl. "All scarecrows are boys," said Chip.	ビフは女の子にしたいと思いました。 「かかしはみんな男の子でしょう」とチップが言いました。
9	The key began to glow. The magic took them inside the little house.	マジック・キーが光りだしました。 魔法でふたりは小さなうちに入り込みました。
10	The magic took them to a field. The scarecrow came to life. "I'm alive!" called Fred.	魔法でふたりは畑に着きました。 かかしには命が宿りました。 「生きている！」とフレッドが叫びました。
11	Fred jumped in the air. "It's magic!" he called.	フレッドは大空に飛び上がりました。 「魔法だ！」と叫びました。
12	There were some scarecrows in the lane. Fred waved at them.	かかしが小道に何人かいました。 フレッドはかれらに向かって手を振りました。
13	Fred ran up to the scarecrows. "Hello!" he called. 'Where are you going?'	フレッドはかかしの所に駆け寄っていきましました。「こんにちは！」とフレッドは叫びました。「どこにいくの」。
14	A scarecrow pointed to a barn. "We're going to the barn dance. You can come too."	かかしは小屋を指差しました。 「みんなで小屋に踊りにいくのです。あなたもどう？」

- | | | |
|----|---|---|
| 15 | Then the scarecrows looked at Biff and Chip. "Oh dear! You can't come." | ビフとチップをかかしが見ていました。
「なんてこと！あなたたちは行けないですよ」 |
| 16 | Biff and Chip weren't scarecrows. They couldn't go to the dance but Fred had an idea. | ビフとチップはかかしではありませんでした。ふたりはダンスには行けませんでした。がフレッドには考えがありました。 |
| 17 | Fred made Biff and Chip into scarecrows. They went to the dance. | フレッドはビフとチップをかかしにしたてあげました。ふたりはダンスに行きました。 |
| 18 | The band began to play. "Come on," called Fred. "Let's dance." | バンドが演奏をはじめました。
「きてごらん」とフレッドが言いました。
「おどろうよ」。 |
| 19 | Biff began to dance with the scarecrows. "This is fun," called Chip. | ビフはかかしと踊りをはじめました。
「これは楽しいな」とチップが大声で言いました。 |
| 20 | Biff danced with Fred. Chip danced with Biff. They all danced with the scarecrows. | ビフはフレッドと踊りました。
チップはビフと踊りました。
みんなかかしと踊りました。 |
| 21 | "See!" said Biff. "There are girl scarecrows. I told you so." | 「ね！」とビフが言いました。「女の子のかかしもいるでしょう。だからそう言ったでしょう」。 |
| 22 | Suddenly, the key glowed. It was time to go home. "Oh no!" said Fred. | 突然マジック・キーが光り始めました。
もう家に帰る時間でした。
「あーあ」とフレッドが言いました。 |

23	The magic took them home. Biff and Chip had an idea.	魔法でみんなはおうちに戻りました。 ビフとチップには考えがありました。
24	"I didn't know there were girl scarecrows," said Mum. "Well, there are," said Chip.	「女の子のかかしがいるって知らなかった わ」とママが言いました。 「いるんだ」とチップが言いました。

After Reading

オズの魔法使いのような場面が出てきました。かかしの性別なんて考えたことはありますか。この本にあるように両方いてもいいわけですね。

See!

p.21 でビフは See!と言っています。かかしを女の子で作ったかったビフは、ほらいたでしようという意味で See と言っていますね。see には「見る」という意味や「わかる」という意味などいろいろあります。このように基本的だと思われる言葉ほど、意味がたくさんある場合があります。その場面で使われている言葉が、知っている意味では通らないときには別の意味があるのかもしれないと思う癖をつけていきましょう。

クラスで楽しもう

会話文を抜き出して、聞き取りながら遊ぶアクティビティーです。会話の意味を考えることと、聞き取ることを目的とします。

準備するもの： 白い中型のカード 16 枚×人数分 ペン

- 1) 指導者が前もって絵本の中から会話文を抜き出してホワイトボードや模造紙などに書いておきます。

例： Look at the birds.

Go Away.

Let's make a scarecrow.
What a good idea.
All scarecrows are boys.
I'm alive.
It's magic!
Hello.
Where are you going?
We're going to the barn dance. You can come too.
Oh dear! You can't come.
Come on. Let's dance.
This is fun.
See! There are girl scarecrows. I told you so.
Oh no!
I didn't know there were girl scarecrows. Well there are.

- 2) 次に子どもたちに文章をひとつの番号をひとつのカードにうつしてもらいます。(時間を短縮したいときには、ここまでを指導者が準備しておきます。)書く練習になるので、ピリオドなどのパンクチュエーションがきちんと写せているかチェックしていきます。
- 3) 絵本の絵の部分を見せて、その絵を見ながらそのページにどのカードのセリフがくるかを考えて、子どもたちそれぞれに自分の前に上から順に下に向かって並べてもらいます。
- 5) CDをかけて1ページごとにポーズを入れて、自分のカードがちがう場合には流れたものを置いていきます。
- 6) 絵本を一冊聞き終わったら、通しで一回聞いてみます。

ことばの解説

表紙 scarecrow かかし

p.2 peck (ed) つつく p.3 go away あっちにいて

p.10 field 畑・競技場・分野 p.12 lane いなか道・小道・車線

p.14 pointed to ~ ~を指さす barn 物置・納屋

Noah's Ark Adventure 「ノアの方舟の冒険」(370 語)

Before Reading

雨降りの中を子どもたちとフロッピーが、方舟をながめています。どんな冒険になっていくのでしょうか。

Noah's Ark Adventure

- 1 It rained and rained.
It rained all day long.
The children were fed up.
- 2 The children went outside.
They wanted to play but it was too wet.
- 3 Dad looked out of the window.
"Come inside," he said.
"It's too wet to play outside."
- 4 The children went to Biff's room. Suddenly, the key began to glow.
It was time for a magic adventure.
- 5 "What a good job!" said Kipper.
"I want a magic adventure.
I'm fed up with all the rain."

ノアの方舟の冒険

雨が降り続けました。
一日中雨でした。
子どもたちはあきあきしていました。
子どもたちは外に出ました。
遊びたいと思いましたが、雨がひどすぎました。
パパは窓の外を見ました。
「中にもどきなさい」とパパが言いました。
「外で遊ぶには雨が強すぎる」。
子どもたちはビフの部屋に入りました。
突然、マジック・キーが光りはじめました。
魔法の冒険の時がきました。
「ちょうどいいね！」とキッパーが言いました。「魔法の冒険がしたかったんだ。
ずっと雨で退屈しちゃった」。

6	The magic key took them into a new adventure. But it was raining.	マジック・キーでみんなは新たな冒険に行きました。 そこも雨が降っていました。
7	"Oh no!" said Kipper. "We don't want an adventure in the rain."	「なんてことだ！」とキッパーは言いました。「雨の中の冒険なんてしたくないよ」。
8	The children saw a boat. "What is it?" asked Kipper. "It's Noah's Ark," said Biff.	子どもたちの目にボートが入りました。「何だろう？」とキッパーが聞きました。「ノアの方舟だわ」とビフが言いました。
9	"Noah has to put the animals on the Ark or they will drown," said Chip.	「ノアは方舟に動物を乗せなくてはならなかったの。でないとおぼれちゃうから」とビフが言いました。
10	"It's raining so much," said Biff. "The water's going to cover everything."	「たくさん雨が降っているわ」とビフが言いました。「水がすべてを飲みこんでしまうわ」。
11	"Don't worry," said Chip. "Noah will save all the animals." "Will he save us too?" asked Kipper.	「心配ないよ」とチップが言いました。「ノアは動物全部を助けるんだよ」。 「ぼくたちも助けてくれるの？」とキッパーが聞きました。
12	"Hello," said Noah. "What do you want? Have you come to help?"	「こんにちは」とノアが言いました。「何をしたいんだい？ 助けに来てくれたのかい？」
13	Noah looked at the water. He pointed at the Ark. "I want some help," he said.	ノアは水を見ました。 ノアは方舟を指差しました。 「助けが必要なんだ」と言いました。

- | | | |
|----|--|--|
| 14 | The children looked at the animals.
"It is time to put the animals on to the Ark," said Noah. | 子どもたちは動物を見ました。
「動物たちを方舟に入れてあげる時間だ」とノアが言いました。 |
| 15 | The animals went on to the Ark. They went on in twos. First, Noah put the big animals on. | 動物たちは方舟に乗り込みました。
1 対になって乗り込みました。
まずノアは大きな動物たちを乗せました。 |
| 16 | A man pushed the elephants. They pulled the crocodiles up in a big net | 男の人がゾウを押し込みました。
大きな網でワニを吊り上げました。 |
| 17 | A camel didn't want to go on to the Ark. They pushed it and pulled it. | ラクダは方舟に乗りたがりませんでした。
みんなは押したり引っ張ったりしました。 |
| 18 | "All the animals are on," said Noah.
"It's time to go. Please get on to the Ark." | 「動物が全部乗ったぞ」とノアが言いました。
「さあ出発だ。方舟に乗りなさい」。 |
| 19 | The children went on to the Ark. Noah looked at Floppy. "Stop!" shouted Noah. | 子どもたちは方舟に向かいました。
ノアがフロッピーを見ました。
「止まって」とノアが叫びました。 |
| 20 | "I'm sorry," said Noah.
"We put two dogs on the Ark. We can't have three dogs." | 「申し訳ないんだが」とノアが言いました。
「われわれは 2 匹犬を乗せたのだ。3 匹は乗せられない」。 |

21	The children couldn't leave Floppy. "Floppy can't go on the Ark, so we won't go on it," said Biff.	子どもたちはフロッピーを置いていくことができませんでした。 「フロッピーが方舟に乗れないのなら、私たちも行けないわ」とビフが言いました。
22	The Ark sailed away. The children floated in Noah's big umbrella.	方舟は出航しました。 子どもたちはノアの大きな傘の中で漂っていました。
23	"It's still raining," said Biff. Just then, the magic key began to glow.	「まだ雨が降っているわ」とビフが言いました。ちょうどその時、マジック・キーが光り始めました。
24	The magic took the children home. "What an adventure!" said Biff. "Oh no!" said Kipper.	魔法で子どもたちは家に戻りました。 「すごい冒険だったわ!」とビフが言いました。 「あらら」とキッパーが言いました。

After Reading

これは聖書にも出てくる「ノアの方舟」の話の中に冒険に行くお話です。欧米では聖書に出てくるお話で有名なものがあります。ある程度の知識があると、話題になった時に困りません。動物から乗せていったとは、動物が大切にされていたのですね。

ノアの方舟

旧約聖書創世記の6～7に出てきます。人間たちのあまりに乱れた行動に怒った神様が、忠実なしもべであった Noah に予言で洪水が起きる事を知らせ、ノア夫婦と3人の息子と奥さんたち家族に方舟 (Ark) を作るよう命令しました。その船には、ノア夫婦と地上に生息するすべての動物一対を乗せられるよう、作り方、大きさを指定しました。洪水が収まったころ、ノアはまず、カラス (Raven) を使者として様子をうかがわせに飛ばしますが、陸地は見えず、その次に鳩 (dove) を飛ばしました。1 回目は何も起こらず、2 回目に鳩はオリーブの葉を口にくわえて戻ります。そして、ノアは初めて、水が引いてきている事を理解します。その後神さまからのお告げがあり、ノアたちは動物たちとともに船をおり、陸地に降り立ちます。

感謝の気持ちを表わすため、祭壇を作り供え物をささげると、虹が現れます。虹はもう2度と洪水を起こすことはないこと、虹を見るたびに神さまの約束を思い出すしるしとなることで、ノアの方舟のイラストには必ず、方舟、動物たちと虹の絵が描かれています。

クラスで楽しもう 1

ノアはみんなの事を救うために方舟に順々に動物を乗せていきます。絵本の中からノアの方舟に描かれている方舟、動物たち、虹の絵を探しましょう。

- 1) キーワードを覚えます。Noah's Ark「ノアの方舟」、the animals「動物」、Rainbow「虹」これらのスペルと発音を確認します。rainbow 以外は本文に出てきています。the Ark と the animals の部分にラインマーカーを引きます。
- 2) 次に絵で描かれているところをひとつずつ確認していきます。p.14 と p.15 から動物は一対になっていることに注目してください。動物を見て何か気づくかどうか子どもたちが触れるまで、待つて答えを引き出すようにしてください。

クラスで楽しもう 2

準備するもの： ポストイット 8 枚×人数分

- 1) 絵本の中でどこにノアがいるか探します。p.12 から p.21 までノアが登場します。このページならばたとえば「見かけない子どもたちと犬が来た。助けてくれそうだな」などのように考えていきます。
- 2) 次にその絵にいるノアの気持ちをポストイットに書き込みます。文字で書ける子どもは文字で、書けない場合には絵を描いてもらいます。
例： The children look helpful.
- 3) ひとつずつポストイットに書けたら、本を開きながらみんながノアの口元にセリフのように貼っていきます。ページごとに先生が子どもの書いたものを読み、みんなで言ってみます。（この時に間違いがあった場合は、さりげなく正しく言いなおします。）

ことばの解説

表紙 Noah ノア Ark 方舟

p.1 fed up 退屈した・うんざりした p.9 put A on B A を B に乗せる

p.13 point(ed) at ～ ～を指さす p.15 in twos 1 対 first まず・一番目の

p.16 crocodiles ワニ（あごを閉じたときに下の歯が少し見える）（alligator はあごを閉じたときに下の歯が見えない）。

p.18 get on 乗る

A New Classroom 「新しい教室」 (328 語)

Before Reading

新しい教室はわくわくするものです。子どもたちのうれしそうな顔を見てください。メイ先生もいます。

A New Classroom

- 1 Some people came to the school.
They put a fence across the
playground.
- 2 The children looked at the fence.
“What is it for?” asked Wilf.
Nobody knew.
- 3 A lorry came to the school.
It had blocks on it.
“What are they for?” asked Biff.
- 4 Then a digger came.
The children were excited.
- 5 Some men dug a long trench
across the playground. “What is
it for?” everyone asked.
- 6 It was time to go in but the
children didn’t want to.
They liked the digger.

新しい教室

学校に作業の人がやってきました。
校庭にフェンスを立てました。

子どもたちはフェンスを見ました。
「何のためなの？」とウィルフが聞きました。
だれにもわかりませんでした。

トラックが学校にやってきました。
ブロックを積んでいました。
「何に使うのかしら？」とビフは聞きました。

するとシャベルカーがやってきました。
子どもたちは興奮しました。

作業員は校庭に長い溝を掘りました。
「いったい何のためだろう？」とみんなが聞きました。

もう教室に入る時間になりましたが、子ども
たちは中に入りたがりませんでした。
シャベルカーが気に入りました。

7	Mrs May looked at the trench. “It’s for a new classroom,” she said.	メイ先生は溝を見ました。 「新しい教室のためね」とメイ先生は言いました。
8	The children were excited. They wanted to find out about the new classroom.	子どもたちは興奮していました。 新しい教室について知りたいと思いました。
9	The children looked at some books. Wilf found a book about diggers. Chip painted a picture of one.	子どもたちは本を読みました。 ウィルフはシャベルカーについての本を見つけました。 チップはシャベルカーの絵を塗りました。
10	Mrs May took the children outside. They talked about the digger. Mrs May took a photograph.	メイ先生は子どもたちを外に連れ出しました。 みんなシャベルカーについて話しました。 メイ先生は写真を取りました。
11	Everyone looked at the blocks. “The classroom will go on the blocks,” said Mrs May.	みんなブロックを見ました。 「教室はブロックの上に建てられますよ」とメイ先生が言いました。
12	Then a crane came to the school. The children were excited. They looked at the driver.	するとクレーン車が学校につきました。 子どもたちは盛り上がりました。 子どもたちは運転手を見ました。
13	“What is the crane for?” asked Biff. “Wait and see,” said Mrs May.	「クレーンは何につかうのですか？」とビフは聞きました。 「見てみましょう」とメイ先生が言いました。
14	The children watched the crane. It lifted the classroom over the wall.	子どもたちはクレーンをじっと見ていました。 クレーンは、教室を塀の上からつりあげました。

15	Everyone watched the classroom. “Don’t drop it,” called Chip.	みんな教室を見守りました。 「落とさないように」とチップが叫びました。
16	Biff looked at the classroom. Something was wrong. “Mrs May! Mrs May!” called Biff.	ビフは教室を見ました。 何か違います。 「メイ先生！メイ先生！」とビフが叫びました。
17	“Don’t shout, Biff,” said Mrs May. The crane put the classroom down. It put the classroom on the blocks.	「叫んではダメですよ、ビフ」とメイ先生が言 いました。クレーンは教室をおろしました。 ブロックの上に置きました。
18	The crane lifted the roof and put it on the classroom. Something was wrong.	クレーンが屋根を持ち上げ教室の上に置 きました。 何かがちがいます。
19	“Mrs May!” called Biff. “Something is wrong.” “Don’t shout, Biff,” said Mrs May.	「メイ先生！」とビフが叫びました。 「ちがっています」。「叫んではいけません よ、ビフ」とメイ先生が言いました。
20	Everyone gasped. The classroom was upside down. “Oh dear!” said Mrs May.	みんな息をのみました。教室は逆さまで した。「まあ、なんていうこと！」とメイ先生 が言いました。
21	“I said something was wrong,” said Biff. “But nobody would listen.”	「だから違うと私は言ったのです」とビフは 言いました。「でもだれも聞いてくれなか ったのです」。
22	The crane put the classroom the right way up. The children wanted to look inside.	クレーン車は教室を正しい方向に置きなお しました。 子どもたちは中を見たくくなりました。

23	The children went inside. Wilf saw a door. “What’s in here?” asked Wilf.	子どもたちは中に入りました。 ウィルフはドアを見ました。 「中に何かあるのですか？」とウィルフが聞きました。
24	Everyone gasped. “Oh no!” said Wilf.	みんながはっとしました。 「なんてことだ！」とウィルフが言いました。

After Reading

ピフが言おうとしているのに言わせてもらえないのを、読んでいっうちに応援したくなります。メイ先生のように興味を持ったらずぐに外に連れていってくれる先生は、あこがれではないでしょうか。工事にまつわるような普段はあまりふれない言葉も、この機会に覚えていきましょう。

Would

p.21 に But nobody would listen. 「だれも聞こうとしなかった」という文章があります。このように would は意志を表わしたりします。

クラスで楽しもう

playground, everyone, classroom, something, nobody, everyone などふたつの言葉がくっついてできた長めの単語が出てきます。英語ではどこを強く読むか意識しながら練習していきましょう。日本語にはあまり抑揚がありません。しかし、英語は抑揚が大切です。それを意識していくのは大切です。

- 1) 注目してほしい単語を選びます。みんなで選んでいてもよいでしょう。子どもが選んだら、長いものでなくても構いません。
- 2) CDを聞いて強いと思う所にマークを入れていきます。ホワイトボードにみんなが見えるように先生が書いていくと、全員で確認がしやすいでしょう。
- 3) 一回単語を発音してみます。
- 4) CDのお話に合わせて、特に長い単語に注意しながらCDと一緒に言ってみます。

ことばの解説

- p.1 fence 塀・柵 playground 校庭・遊び場 p.2 nobody だれも～ない
p.3 lorry トラック(アメリカでは truck という) block(s) ブロック・レンガ
for 目的を示す
p.4 digger シャベルカー be excited わくわくする・ドキドキする・興奮する
p.5 trench 溝・堀 across 横切って
p.10 photograph 写真(発音に注意しましょう。o は【ou】と発音します。)
p.12 driver 運転手 p.13 wait and see 様子を見る
p.18 wrong 誤っている・まちがえ p.20 gasp(ed) 息をのむ・あえぎながら言う
p.22 right way 正しい方向

Mum to the Rescue 「ママの救助隊」 (352 語)

Before Reading

ママがオールを持って救命ボートに乗っています。なぜか楽しそうな表情です。

Mum to the Rescue	ママの救助隊
1 Mum and Dad went to a car boot sale. They took the children.	ママとパパはフリーマーケットに行きました。 子どもたちも連れていきました。
2 Mum looked at a dinghy. She called Dad. Dad looked at the dinghy.	ママがゴムボートを見ていました。 ママはパパを呼びました。 パパがゴムボートを見ました。
3 “What is it?” asked Dad. “It’s a dinghy,” said Mum.	「それは何なの？」とパパが聞きました。 「ゴムボートよ」とママが言いました。
4 Mum wanted the dinghy. She called the children. “Look at this,” she said.	ママはゴムボートを欲しいようでした。 ママは子どもたちを呼びました。「これを見て」とママは言いました。
5 The children looked at the dinghy. “What is it?” they asked. “It’s a dinghy,” said Mum.	子どもたちはゴムボートを見ました。 「それは何？」とみんなが聞きました。 「ゴムボートよ」とママが言いました。
6 They took the dinghy home. Dad pumped it up but it went down again.	みんなはゴムボートを持ち帰りました。 パパが空気を入れたのですが、またしぼんでしまいました。

7	Mum mended the dinghy. She put a patch on it. The children helped.	ママがゴムボートを修繕しました。 ママはパッチを貼りました。 子どもたちは手伝いました。
8	Dad put the dinghy on the car. They took a picnic and went to the river.	パパは車にゴムボートを乗せました。 ピクニック用お弁当を持ち、川に出かけ ました。
9	Dad looked at the river. He pointed at the weir. “The weir is dangerous,” he said	パパが川を見ました。 小さなダムを指しました。 「小さなダムは危ないよ」とパパが言いま した。
10	Mum and Dad had a good idea. “Let’s put everything in the dinghy. Everyone can help,” they said.	ママとパパには良い考えがありました。 「全部のものをゴムボートに乗せようよ。 みんなで手伝おう」とみんなは言いま した。
11	They found a good spot for the picnic. The children paddled the dinghy.	みんなはピクニックによい場所を見つけ ました。 子どもたちはゴムボートをこぎました。
12	It was time for the picnic. Mum and Dad put the rug down and got the picnic out.	お昼の時間です。 ママとパパはシートを広げて、お弁当を 出しました。
13	Floppy ran out of the water. He shook water over Dad. “Go away, Floppy!” said Dad.	フロッピーは川から出てきました。 フロッピーはパパの方に向かって水をは らいました。「あっちにいけよ、フロッピ ー！」とパパが言いました。

14	The river was busy. Biff and Chip watched the boats go by.	川は混んでいました。 ビフとチップはボートが行くのを見ていました。
15	Biff liked the big boats. “I wish we could go on a big boat,” she said.	ビフは大きなボートが好きでした。 「もし大きなボートに乗れたらなあ」とビフは言いました。
16	It was time to go home. “What a good day!” said Dad. “It was a good picnic.”	もう家に帰る時間になりました。 「なんてよい一日だったのだろう！」とパパが言いました。「よいピクニックだったね」。
17	“Look!” said Biff. “There is nobody on that boat.”	「見て！」とビフが叫びました。 「だれもあのボートに載っていないね」。
18	“My boat is in danger,” called a lady. “Help! Get my boat!”	「私のボートが危険なんです」とおばあさんは言いました。 「助けて！私のボートをつかまえて」。
19	Mum put the dinghy in the river. She paddled to the boat. “Be careful,” called everyone.	ママはゴムボートを川に運びました。 ママはボートまで漕いで行きました。 「気をつけてね」とみんなが言いました。
20	Mum climbed on to the boat. She started the engine. She was just in time.	ママがボートに乗りこみました。 ママはエンジンをかけました。 ぎりぎりで間に合いました。
21	Mum brought the boat back. “Hooray!” everyone shouted. “Mum to the rescue!” said Kipper.	ママはボートを戻しました。 「やったあ！」とみんなが叫びました。 「ママの救助隊だね！」とキッパーが言いました。

22	Dad let go of the dinghy rope.	パパがゴムボートのロープを放してしまいました。
	The dinghy went over the weir.	ゴムボートが小さなダムまで流れてしまいました。
	"Oh no!" said everyone.	「あ～あ」とみんなが言いました。
23	The lady had an idea.	おばあさんには考えがありました。
	"I will lend you my boat to say thank you," she said.	「お礼としてボートを貸しますよ」とおばあさんは言いました。
24	The family had a holiday on the boat. "Thanks to the dinghy" said Mom.	家族はボートで休日を過ごしました。 「ゴムボートのおかげね」とママが言いました。

After Reading

P19 を見ると誰が救助に向かっていますか。ママですね。この辺は日本ならば、パパが運転するほうが多いかもしれません。

クラスで楽しもう

ORT の裏表紙には、どれもその本でフォーカスしてほしい単語がリストされています。この単語を使って行うアクティビティーのご紹介です。

- 1) 裏表紙のキーワードを全員で読みます。次に意味を確認します。
- 2) 制限時間を決めて、1)の単語を使ってできるだけたくさんの文章を作りましょう。単語をヒントに文章を組み立てていきましょう。

ことばの解説

p.2 dinghy 救命ゴムボート

p.6 pump(ed) ポンプで動かす・送る p.7 mend(ed) 直す patch あて布

p.9 weir 小さなダム(堰(せき)) p.9 dangerous 危険な

p.11 paddle 漕ぐ・へら・パドル(短い)

p.12 picnic お弁当そのものを指す場合と、ピクニックに行くという意味の場合もある。

p.15 I wish～ ～だったらよいのに、というときに使えます。

p.17 There is nobody on that boat. いない人がいるという言い方で、「あのボートにはだれもいない」という意味になる。

p.23 lend (無料で)貸す。

本文著者 宮下いづみ

Eunice English Tutorial 主宰

SEG 英語多読コース講師

東京音楽大学付属高校非常勤講師

Oxford Reading Tree Level 5 More Stories C

- ① Sleeping Beauty [321 語]
- ② The Adventure Park [330 語]
- ③ Kipper and the Trolls [360 語]
- ④ Safari Adventure [324 語]
- ⑤ Dad's Run [324 語]
- ⑥ Drawing Adventure [368 語]

Sleeping Beauty 「眠れる森の美女」 (321 語)

今度のマジックアドベンチャーは、なんと眠れる森の美女の城！？
王子様を助けて、無事にお姫様を起こす事が出来るのでしょうか？

このお話の基になった、糸車の針を指に刺して 100 年の眠りについた王女様のお話『Sleeping Beauty(眠れる森の美女)』は有名です。英語版はオックスフォード大学出版局より出ている Oxford Classic Tales シリーズにもありますので、まだ英語で読んだ事のない方はこちらもぜひ、どうぞ。

ロールプレイ

キッパーたちが眠れる城に行ってからのお話を演じてみませんか？

本文中のセリフだけを取り出して、役を決めて言うだけでも楽しいですが、これに加えて、他の部分のセリフもオリジナルのアイデアを皆で出し合って演じてみます。劇にして演じるのが大変であれば、動きはつけずに朗読だけで、ラジオ劇風に効果音なども入れて録音してみるのも楽しいですね。次ページのセリフの太字の部分は私の教室の子どもたちが考えたセリフです。オリジナルのセリフと上手く重なると、絵本と一緒に作っているような気持ちになって楽しいですよ。

【オリジナルのセリフの例】

Page	Character	Dialogue
1	Kipper	They look delicious!
	Dad	I'm tired.
2&3	Dad	Phew!
	Kipper	Wow!
	Wilma	Mind the thorns!
	Chip	Ow! The thorns are sharp.
4&5	Wilma	These blackberries are big!
	Biff	It's cute!
6	Teddy	I'm bored.
	Biff	Yuk! This isn't ripe.
7	Biff	The magic is working.
	Kipper	Ha. Ha. Ha! It's fun!
8&9	Kipper	Wow! Look at these thorns.
	Man	Ow! Help! I can't get free!
	Chip	Let's help him.
	Kipper	Who's he?
10&11	Man	Thanks. I wanted to get to the castle, but I got stuck in the thorns.
	Wilma	You're welcome.
	Chip	Who are you?
12&13	Man	I am a prince. I need to get in the castle. There is a princess in there.
	Kipper	No way!
14&15	Wilma	We can help. We can lend you these clippers.
	Man	Mind the thorns.
	Wilma	I'm excited!
16&17	Chip	It's dirty here.
	Kipper	Yuk! Look at the cobwebs.
18	Kipper	The guards are sleeping, too.
19	Biff	She's beautiful!
	Man	Now what do I do?
20	Kipper	You kiss the princess. Then she wakes up. Everyone knows that!

21	Man	Why?
	Chip	Yuk!
	Kipper	Yeah!
22&23	Princess	At last!
	Kipper	Hooray!
	King&Queen	Thank you for help.
	Chip	Is it happy-ending?
	Wilma	Yes!
	Biff	Time to go. The prince doesn't need us now.
24	Chip	Now you kiss my dad, Wilma.
	Biff	He's no Sleeping Beauty!

【訳】

	Sleeping Beauty	眠れる森の美女
1	The Children went to pick blackberries.	子どもたちはブラックベリー（クロイチゴ）を摘みに出かけました。
2	There were lots of blackberries. The bushes had thorns.	そこにはたくさんのブラックベリーがありました。茂みにはトゲがありました。
3	"Mind the thorns," called Wilma. "Ow!" said Chip. "The thorns are sharp."	「トゲに気をつけて」とウィルマが叫びました。「いたっ！」とチップが言いました。「鋭いトゲだなあ」
4	Wilma saw some big blackberries. She had some thick gloves and some clippers.	ウィルマは大きなブラックベリーを見つけました。ウィルマは分厚い手袋とハサミを持っていました。
5	Wilma put on the thick gloves. She cut the stems with the clippers.	ウィルマは分厚い手袋をはめました。そしてハサミを使って茎を切り取りました。
6	The children went home. They ate some blackberries. "Yuk! This isn't ripe," said Biff.	子どもたちは家に帰りました。みんなでブラックベリーを食べてみました。「おえっ！まだ熟していないよ」ビフが言いました。
7	Biff picked up the magic key. It began to glow. "The magic is working," said Biff.	ビルはマジックキーを拾い上げました。するとキーは光り始めました。「魔法が働いている」とビフが言いました。
8	The magic took them to a castle. "Wow! Look at these thorns," said Kipper.	魔法の力で、子どもたちはお城に連れて来られました。「わ～！見て見て、この辺り トゲだらけ！」とキッパーが言いました。
9	A man was stuck in the thorns. "Ow! Help!" he called. "I can't get free."	男の人がトゲの間に動けなくなっていました。「いたっ！助けて！」とその人が叫びました。「自由に動けないんだ」
10	Wilma put on the gloves. She got the clippers. Then she cut the man free.	ウィルマが手袋をはめました。そしてハサミを取り出しました。それからあちこち切り取って、その人を自由にしてあげました。

11	"Thanks," said the man. "I wanted to get to the castle, but I got stuck in the thorns."	「ありがとう」とその人は言いました。 「城に行きたかったのだが、このトゲに邪魔されて動けなくなってしまったのだ」
12	"I am a prince," said the man. "I need to get in the castle. There is a princess in there."	「私は王子だ」とその人は言いました。 「なんとしても城に入らなくては。中に王女がいるのだ」
13	"We can help," said Wilma. "We can lend you these clippers."	「お手伝いします」とウィルマが言いました。「このハサミをお貸しします」
14	The thorns were sharp but the prince cut a way in. "Mind the thorns," he called	鋭いトゲでしたが、王子様はなんとか道を切り開きました。そして「トゲに気をつけたまえ」と言いました。
15	At last, they got to the castle. The prince pushed the door open.	ようやく、皆はお城の中に入る事が出来ました。王子様がドアを押し開けました。
16	They went inside the castle. Everyone was fast asleep.	皆は中に入っていました。 中の人たちは全員眠っていました。
17	There was dust on everything. "Yuk!" said Kipper. "Look at the cobwebs."	城中ほこりをかぶっていました。 「げっ!」とキッパーが言いました。 「見て、クモの巣だらけだよ」
18	There were cobwebs everywhere. There were even cobwebs on the people."	クモの巣がそこら中にありました。 人間の上にもかかっていた。
19	At last, they found the princess. She was fast asleep. "Now what do I do?" said the prince.	ついに、皆は王女様を見つけました。 王女様は眠っていました。 「さて、どうしたものか?」と王子様が言いました。
20	"You kiss the princess," said Kipper. "Then she wakes up. Everyone knows that!"	「あなたが王女さまにキスするんだよ」とキッパーが言いました。 「そうしたら、王女様の目が覚めるんだ。そんなこと誰だって知っているよ!」
21	The prince kissed the princess. "Yuk," said Chip. The princess woke up.	王子様は王女様にキスしました。 「うわっ!」とチップが言いました。 王女様が目覚めました。
22	"At last!" said the princess. Everyone in the castle woke up.	「やっと来てくれたのね!」と王女様が言いました。お城中の人が目覚めました。

23	<p>The magic key glowed.</p> <p>“Time to go,” said Biff.</p> <p>“The prince doesn’t need us now.”</p>	<p>マジックキーが光りました。</p> <p>「行く時間だよ」とビフが言いました。</p> <p>「王子様には私たちはもう必要ないからね」</p>
24	<p>The magic adventure was over.</p> <p>Dad was fast asleep.</p> <p>“He’s no Sleeping Beauty!” said Biff.</p>	<p>マジックアドベンチャーは終わりました。</p> <p>パパが眠っていました。</p> <p>「眠れる美男とはとても言えないね！」とビフが言いました。</p>

The Adventure Park 「アドベンチャー・パーク」 (330 語)

キッパーたちはアドベンチャー・パークに出かけました。みんなワクワクドキドキ大興奮！

【お知らせ】

この *The Adventure Park* 内の一部に、文章およびイラスト音声とは異なる箇所がございます。本文中の「chicken」(チキン)に当たる部分は、当初「sausage」(ソーセージ)だったのですが、ソーセージの一般的な原料が豚肉であることから、これを宗教的な事情により食べられない読者の子どもたちへの配慮として、別の単語(“chicken leg(s)”)に差し替えたものであり、版元である Oxford University Press 英国本社判断におきまして、行われた変更でございます。

しかしながら、今回ご購入頂きました CD つきパックには、音声サポートを必要とする日本の英語学習者のために日本国内で独自に作成した CD とガイドブックを付属しておりますが、これらの作成時点ではソーセージという単語の差し替え予定がなかったため、CD とガイドの音声・文章は、差し替え後のバージョンには残念ながら対応しておりません。現在下記ウェブサイトにて該当ページと音声が無料でダウンロードいただけます。

www.oupjapan.co.jp/oxfordreadingtree

書籍本体と CD やガイドブックの内容との間に誤差が生じたこと、心よりお詫び申し上げます。ユーザーの皆様にはご迷惑をお掛けし誠に申し訳ございませんが、何卒事情ご賢察の上、ご了承頂けましたら幸いです。

尚、テキスト差し替えの詳細は以下の通りです。

ページ	差し替え前 … 付属 CD 上の文章	差し替え後 … ストーリーブック上の文章
p.15	“Look at this sausage!”	“Look at this chicken leg!”
p.16	It took the sausage from Dad’s hand.	It took the chicken leg from Dad’s hand.
p.17	It began to eat the sausage.	It began to eat the chicken leg.
p.21	“It took Dad’s sausage!”	“It took Dad’s chicken leg!”
p.24	They went back but the sausages were burnt.	They went back but the chicken legs were

夢のアドベンチャーパーク

キッパーたちの行ったアドベンチャーパーク、とっても楽しそうでしたね。

どんなアトラクションがあったか、おさらいしてみましょう。パーク内の案内地図を作ってみるのも楽しいですね。

- Chip and Biff went across the log bridge.
- Kipper and Biff went on the rope runway.
- Biff and Dad went in a red canoe.
- Mum, Chip and Kipper went in a green canoe.

その後皆で「こんなアドベンチャーパークがあったらいいな」、と思う、夢のパークのアイデアを出し合ってみましょう。どんなアトラクションがいいかな？ またそれを英語でなんと言うのか、一緒に調べても楽しいですね。アイデアが出たら、今度は皆でその絵を描いてみましょう。

(例)

trampoline(トランポリン)

wall climbing(壁のぼり)

slide(すべり台)

swing(ブランコ)

roller coaster(ジェットコースター)

go-kart(ゴーカート)

*Oxford Reading Tree Stage 6 More Stories B の Ship in trouble というお話の中にもチップたちが近くの adventure playground に出かけて行ったエピソードが出て来ます。

【訳】

	The Adventure Park	アドベンチャー・パーク
1	The children went to an adventure park. They were excited.	子どもたちはアドベンチャーパークへ出かけました。 みんな大はしゃぎしていました。
2	They all wanted to go on the Treetop Adventure. “This looks exciting,” said Chip.	みんなそろって、ツリートップ・アドベンチャー（木の上のアスレチック）に挑戦したがりしました。「これはワクワクするな！」とチップが言いました。
3	Chip put on a harness. The harness had a clip at the front.	チップは命綱（ハーネス）をつけました。先の部分にクリップがついていました。
4	Chip went across the log bridge. “Come on, Biff,” he called. “You can’t fall off.”	チップは丸太の橋を渡りました。 「おいでよ、ビフ！」チップが呼びかけました。 「落ちる心配はないからさ」
5	Biff began to go across the bridge. “This is exciting,” she said.	ビフは橋を渡り始めました。 「これってすごくドキドキする！」と言いました。
6	Kipper went on the rope runway. “Off you go!” said Mum.	キッパーはジップラインに挑戦しました。 「さあ行け〜！」とママが言いました。
7	“Here I come,” called Kipper. He went down fast. “I want to go next,” said Biff.	「キッパー参上！」とキッパーが叫びました。 すごい速さで、滑って行きました。 「私も次にやってみたい」とビフが言いました。
8	Biff and Dad went in a red canoe. “Come on!” called Biff. “You won’t fall in!”	ビフとパパは赤いカヌーに乗り込みました。 「おいでよ！」とビフが呼びかけました。 「落ちる心配はないからさ！」
9	Mum, Chip and Kipper went in a green canoe.	ママとチップとキッパーは緑のカヌーに乗り込みました。
10	They went across the lake. It was fun in the canoes.	皆で湖を渡りました。 カヌーを漕ぐのは楽しいものでした。
11	Chip saw a big bird in the sky. “Look at that big bird,” he said. “What do you think it is?”	チップは空飛ぶ一羽の鳥を見つけました。 「見て、あの大きい鳥」と彼は言いました。 「あれは何の鳥だと思う？」
12	It was time for a barbecue. They all helped to bring the food. Dad lit the barbecue.	バーベキューの時間になりました。 皆で協力して食料を運びました。 パパがバーベキュー台に火をつけました。

13	"I am hungry," said Kipper. "It won't be long," said Dad.	「お腹がすいたよ～」とキッパーが言いました。 「すぐに出来るよ」とパパが言いました。
14	They all sat at the table. Dad was busy. There was a lot to cook.	皆でテーブルの用意をしました。パパは大忙しでした。焼くものがたくさんあったからです。
15	"This looks good," said Dad. "Look at this chicken leg! What a good cook I am!"	「これはなかなかいい感じだ」とパパが言いました。「見てごらん、このチキンを！我ながら名シェフだな、僕は！」
16	A big bird swooped down. It had straps on its legs. It took the chicken leg from Dad's hand.	そこへ、大きな鳥がさ～っと飛んで来ました。足にストラップをつけていました。その鳥はパパの手からチキンを奪い取りました。
17	The bird flew back into a tree. It began to eat the chicken leg.	その鳥は木の方へ飛び去って行きました。そしてチキンを食べ始めたのです。
18	The bird sat in the tree. Everyone looked up at it. "It must be hungry," said Biff.	その鳥は木の上に座っていました。皆でその鳥を見ました。「きっとお腹がすいていたのね」とビフが言いました。
19	Dad got his mobile phone. "A bird has escaped," he said.	パパが携帯電話を取り出しました。「鳥が一匹逃げましたよ」と言いました。
20	A woman came to catch the bird. It flew down and landed on her arm.	女の人が鳥を捕まえに来ました。するとその鳥は木から下りて女の人腕に止まりました。
21	"This bird is called a falcon," said the woman. "It took Dad's chicken leg!" said Biff.	この鳥はハヤブサと言うのよ」と女の人が言いました。「パパのチキンを取っちゃったんだよ！」とビフが言いました。
22	The woman took the falcon home. Everyone went with her.	女の方はハヤブサを連れ帰りました。皆一緒について行きました。
23	They looked at all the birds. "What beautiful birds," said Chip.	皆はそこにいる鳥たちを眺めまわしました。「きれいな鳥たちだね！」とチップが言いました。
24	They went back but the chicken legs were burnt. "I'm still hungry!" said Kipper.	皆戻って来るとチキンは全部焦げてしまっていました。「僕、まだお腹すいたままなんだけど」とキッパーが言いました。

Kipper and the Trolls 「キッパーとトロール」 (360 語)

お話に出て来る、恐ろしいトロールの橋に来てしまったキッパーたち。どうなることやら！？

このお話の基になった、トロールがヤギを食べてしまおうとする、*Three Billy Goats Gruff* (『三びきのやぎのがらがらどん』) のお話は有名です。英語版はオックスフォード大学出版局より出ている *Oxford Classic Tales* シリーズの中にも *Three Billy Goats* というタイトルで出版されていますので、まだ英語で読んだ事のない方はこちらもぜひ、どうぞ。

過去形探し→過去形ビンゴ

絵本の中に出て来る動詞の過去形を皆で協力して探して、アンダーラインを引いてみましょう。その後で 16 個選んで、16 マスのビンゴシートの各マスに過去形と現在形を want-wanted ように書いてビンゴをします。

文中に出て来る過去形には、以下のようなものがあります。

wanted, gave, looked, said, made, ran, began, took, jumped, sang, went, set (現在・過去同形), got, had, was, washed

want
wanted

トロールのご馳走

ナメクジバーガー (slug bun)、スライムゼリー (slime jelly)、泥ミント (mud mint)、虫入りパイ (bug pie) など、トロールのご馳走は気持ちの悪い物ばかり。

他にもどんなご馳走が...？考えてみましょう！

以下は私の教室の子どもたちによるアイデアです。

(例)

frog tempura(カエルの天ぷら)

fried flies(ハエのフライ)

hair cup noodles(髪の毛のカップ麺)

snail salad with no dressing(かたつむりサラダ、ドレッシングなし)

* 考える時あまりにスカレートしすぎて、ホラ一度全開の残酷な食べ物になりすぎないようにご注意ください！！

キッパの気持ち

文中に出て来るセリフの部分だけ、読んでみましょう。特にキッパに注目し、順番にキッパ役になって、感情を込めて読んでみましょう。このお話はセリフをつなげて行くだけでロールプレイが可能です。横長の用紙(出来れば4本線入りの英語ノートなど)を用意して、各自でセリフを書き写し、読み上げて行くのもいいでしょう。

【訳】

	Kipper and the Trolls	キッパーとトロール
1	Mum was going to make a cake. She wanted Kipper to help.	ママはケーキを作ろうとしていました。キッパーに手伝ってほしいと思っていました。
2	First Mum gave Kipper an apron. Then she looked at his hands. "What dirty hands!" said Mum.	まず、ママはキッパーにエプロンを渡しました。それからキッパーの手を見ました。「まあ、なんて汚い手！」とママは言いました。
3	Mum looked at Kipper's nails. Kipper's nails were long. "Let me cut then," said Mum.	ママはキッパーの爪を見ました。長く伸びていました。「爪を切らせてちょうだい」とママが言いました。
4	Kipper made a fuss. He didn't want Mum to cut his nails. He didn't want to wash his hands.	するとキッパーは大騒ぎ。ママに爪を切ってもらうのがいやでたまらないのです。手を洗うのもいやなものでした。
5	"I must cut your nails," said Mum. "No! No! No!" said Kipper and he ran out of the room.	「絶対に爪を切らなくては」とママが言いました。「いやだ！いやだ！いやだ！」キッパーはそう言うと、走って部屋から出て行ってしまいました。
6	Kipper ran into Biff's room. Biff looked at Kipper's long dirty nails. "Yuk!" said Biff. "You look like a troll."	キッパーはビフの部屋へ走りこみました。ビフはキッパーの、長くて汚い爪を見ました。「げっ！」とビフが言いました。「それじゃまるでトロールみたいだよ」
7	"It's not fair," said Kipper. But the key began to glow. It was time for a magic adventure.	「そんなのひどいよ」とキッパーが言いました。けれどちょうどその時、マジックキーが光り始めたのです。マジックアドベンチャーの始まりです。
8	The magic took them to a stream. There was a bridge over the stream.	魔法の力で二人は小川のそばに連れて行かれました。そこには橋がかかっていました。
9	Biff wanted to cross the bridge. "We can pick the flowers over there," she said. "Come on!"	ビフは橋を渡ってみたいと思いました。「橋の向こうのお花が摘めるね」と言いました。「行こうよ！」

10	Kipper ran after Biff. But there were trolls under the bridge.	キッパーはビフの後ろを走りました。 しかし橋の下にはトロールたちが潜っていたのです。
11	Suddenly the trolls jumped out. "Oh no!" said Kipper. "Trolls can be nasty."	突然トロールたちが飛び出してきました。 「ああ、たいへん！」とキッパーが言いました。「トロールって悪いやつらなんだ」
12	"Hip, hip, hooray!" sang the trolls. "This is the troll bridge. Do come across."	「いえ〜い、やったぜ！」とトロールたちが声を揃えて叫びました。「これはトロール橋だ。さあ、どうぞ。通ってくれ」
13	"Will you eat us up?" said Kipper. "No! No! We will not," sang the trolls.	「僕たちを食べちゃうつもりなんですよ？」とキッパーが聞きました。 「いや、いや、まさか、とんでもない」とトロールたちが答えました。
14	"We are not nasty," said a troll. "We just look nasty."	「俺たちや、悪者なんかじゃないんだ」とトロールの一人が言いました。 「見かけが悪いだけでな」
15	"Nobody likes us," said a troll. "We want to have a party but nobody wants to come."	「俺たちや嫌われ者なんだ」と言いました。「ただパーティを開きたいだけなのに、誰も来てくれない」
16	The trolls went under the bridge. They got the party food and set out the party.	トロールたちは橋の下に行きました。そこにはパーティのご馳走がテーブルの上に置かれていました。
17	"Tuck in," said a troll. The trolls had long dirty nails.	「好きなだけ食ってくれ」とトロールが言いました。トロールたちは長くて汚い爪をしていました。
18	"Yuk!" said Kipper. "Look at her long dirty nails." "Look at the troll food," said Biff.	「おえっ！」とキッパーが言いました。 「見てよ、この長くて汚い爪！」 「トロールの食べ物を見てごらんよ」とビフが言いました。
19	"Have a slug bun," said a troll, "or some slime jelly."	「ナメクジバーガーはいかがかね」とトロールが言いました。「それともヘドロのゼリーはどうだい」
20	"Have a mud mint," said another troll. "Mud mints are yummy." "Yuk!" said Biff.	「泥ミントをお食べよ」と、他のトロールが言いました。「泥ミントはうまいぞ」 「おえっ！」とビフが言いました。

21	<p>“Have some bug pie,” said a troll.</p> <p>“Yuk!” said Kipper. “Look at his hands.”</p>	<p>「虫入りパイはいかがかね」とトロールが言いました。</p> <p>「うわっ！」キッパーが言いました。「あの手を見てよ」</p>
22	<p>Suddenly the key began to glow. The adventure was over.</p> <p>“At last,” said Kipper.</p>	<p>突然、マジックキーが光り始めました。冒険はおしまいです。</p> <p>「ようやく終わったよ」とキッパーが言いました。</p>
23	<p>The magic took them home. Kipper washed his hands. Then he went to get his nails cut.</p>	<p>魔法の力で、二人は家に戻りました。キッパーは手を洗いました。そして、ママに爪を切ってもらいに行きました。</p>
24	<p>“I’m not a troll,” said Kipper.</p> <p>“Trolls have dirty hands and long nails! Yuk!”</p>	<p>「僕はトロールなんかじゃないからね」とキッパーは言いました。「トロールは手が汚くて、爪が長いんだから！おえっ！」</p>

Safari Adventure 「サファリ・アドベンチャー」 (324 語)

アフリカのサファリで、チップとウィルフがシマウマを助けて大活躍！

アフリカのサファリにいる動物

シマウマのほかにも、どんな動物がアフリカのサファリにはいるのでしょうか？

皆で調べて、サファリの絵を描いてみるものもいいですね。

(例)

Giraffe (キリン)

Hippopotamus (カバ)

Tiger (トラ)

Lion (ライオン)

Cheetah (チーター)

Deer (シカ)

【訳】

	Safari Adventure	サファリ・アドベンチャー
1	Chip and Wilf were tracking Dad. "This is a good game," said Wilf.	チップとウィルフはパパの後をつけていました。 「面白いゲームだね」とウィルフが言いました。
2	"Put this in your hat," said Chip. "Dad won't see us. Then we can track him."	「これを帽子につけて」とチップが言いました。 「パパに気づかれないために。そうすれば、このまま後をつけられるよ」
3	Chip and Wilf hid in the trees. "Keep down," said Chip. "Here comes Dad."	チップとウィルフは茂みの中に隠れました。 「身をかがめていて」とチップが言いました。 「パパが来たよ」
4	Dad went past. He looked for the boys, but he couldn't see them.	パパが通り過ぎました。二人のことを探していましたが、パパには見えなかったのです。
5	Floppy went sniff, sniff, sniff! "Go away, Floppy!" said Chip, but Floppy wouldn't go.	フロッピーがクン、クン、クン、と近寄ってきました。 「フロッピー、あっちへ行け！」とチップが言いましたが、フロッピーは動こうとしませんでした。
6	Chip and Wilf went home. They looked for Biff but he was not there.	チップはウィルフとうちに帰りました。 ビフの姿を探しましたが、いませんでした。
7	The key began to glow. It took Chip and Wilf into a magic adventure.	マジックキーが光り始めました。 チップとウィルフをマジックアドベンチャーに連れて行きました。
8	The magic took them to Africa. Some zebra were going to drink at a pool.	魔法の力で二人はアフリカに連れて行かれました。 数頭のシマウマが池で水を飲もうとやって来ました。
9	Chip and Wilf looked around. "A herd of zebra!" said Wilf. "Don't let them see us!"	チップとウィルフは周りを見回しました。 「シマウマの群れだ！」とウィルフが言いました。 「僕たち、見つからないようにしなくちゃ！」
10	Chip saw a lorry by a tree. Some men got out.	チップは木の近くのトラックに気づきました。 男の人が数人、降りて来ました。
11	They began to creep up to the zebra. "What do they want?" said Wilf.	その人たちはシマウマに向かって忍び寄って行きました。 「何がしたいのかな？」とウィルフが言いました。

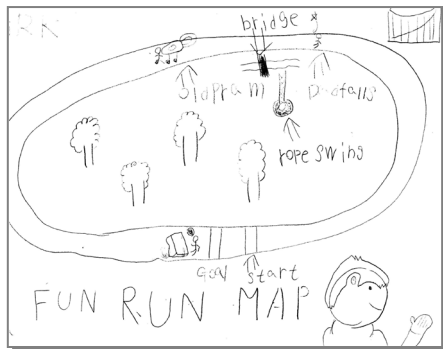
12	"Oh no!" said Wilf. "They are going to catch a zebra."	「まずいぞ！」とウィルフが言いました。「あの人たち、シマウマを捕まえるつもりだ」
13	"We must stop them," said Chip. He had an idea. "Come on," he said.	「何とか止めなくちゃ」とチップが言いました。いいアイデアが浮かびました。「来て！」と言いました。
14	The boys ran to the lorry. Chip pressed the horn. "Beeeeeeeeep!" it went.	二人はトラックまで走って行きました。チップがクラクションを鳴らしました。「ブ〜〜ッ！」と音がしました。
15	"Beeeeeeeeep!" went the horn again. The zebra looked up.	「ブ〜〜ッ！」ともう一回クラクションを鳴らしました。シマウマたちが頭を上げました。
16	The horn scared the zebra. They ran away.	クラクションの音でシマウマたちはすっかりおびえてしまいました。シマウマたちは逃げ出しました。
17	The men were scared, too. They ran back to the lorry. "Quick! Let's go," one called.	男たちも恐がっていました。走ってトラックに戻って行きました。
18	"Quick, Wilf," said Chip. "Run!" They ran away.	「急げ！さあ、行くぞ」と一人が叫びました。「ウィルフ、いそいで」とチップが言いました。
19	Chip and Wilf hid in a bush. They didn't want the men to see them.	「走ろう！」二人は走って逃げました。チップとウィルフは茂みの中に隠れました。男たちに見つからないようにしました。
20	The men couldn't start the lorry. Suddenly a jeep drove up. There were rangers in the jeep.	男たちはトラックのエンジンをかけることが出来ませんでした。突然、ジープが近づいてきました。ジープにはレンジャーたちが乗っていました。
21	The men jumped out of the lorry and ran away. The rangers chased after them.	男たちはトラックから飛び降りて逃げ出しました。レンジャーたちが追いかけてきました。
22	A ranger shook Chip's hand. "Thank you," he said. "You saved a zebra."	レンジャーの一人がチップと握手をしました。「ありがとう」とその人は言いました。「君たちがシマウマを救ってくれたんだね」
23	The magic key began to glow. It was time to go. It had been an exciting adventure.	マジックキーが光り始めました。戻る時間です。ドキドキするような冒険でした。
24	"Why wouldn't the lorry start?" asked Wilf. "Ha! I took the key!" said Chip.	「でも、なんでトラックのエンジンはかからなかったんだろう」とウィルフが言いました。「フフッ！僕がキーを取っちゃったからさ！」とチップが言いました。

Dad's Run 「パパのマラソン大会」(324 語)

パパが恵まれない子どもたちを救うためのチャリティ・マラソンに挑戦しますが・・・！？

パパのマラソンコース

パパが今回走ったのはORTシリーズでもおなじみの近所の公園。「Kipper たちの住む町MAP」を参考に、マラソンコースの地図を描いてみましょう。Level 2 にも出て来る、rope swing(タイヤのブランコ)がある stream(小川)の近くも通りますね。

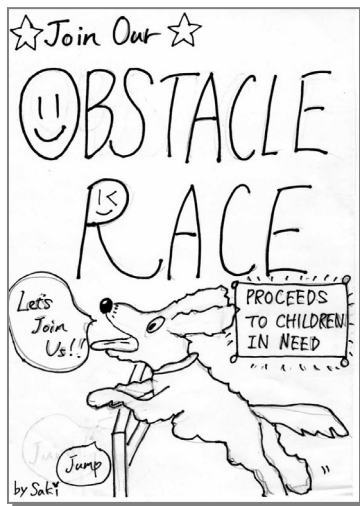


スポンサーつき競技

今回のマラソンは恵まれない子どもたちの為に、スポンサーになってくれた人たちからお金を集めてパパたちが走りました。もしも、そういう目的で実際に何かをしたら、どんな競技が良いですか？

本文 4 ページに描かれているポスターを参考にして、その競技のポスターを各自で作ってみましょう。

(例: 障害物競走、イラストは Floppy!)



【訳】

	Dad's Run	パパのマラソン大会
1	Dad went running. Floppy went with him.	パパはランニングをしに行きました。フロッピーも一緒でした。
2	Dad went running every day. "I want to get fit," he said.	パパは毎日ランニングしました。「健康でいたいからね」とパパは言いました。
3	Biff and Chip went with Dad. They went on bikes. "Keep going, Dad," said Biff.	ビフとチップがパパと一緒に went on bikes. 彼らは自転車に乗って行きました。「その調子、パパ！」とビフが言いました。
4	Dad had an idea. He wanted to do the Fun Run.	パパにアイディアが浮かびました。「楽しいマラソン大会」に参加したい、と思ったのです。
5	"What a good idea," said Mum. "But it's a long way to run!"	「いい考えじゃないの！」とママが言いました。「けれどもかなりの長距離を走るのよ」
6	Biff and Chip told everyone. "Dad is going to do a Fun Run," said Biff.	ビフとチップは皆にその話をしました。「パパが楽しいマラソン大会に出るんです」とビフが言いました。
7	"It's to help Children in Need," said Chip. "Will you sponsor Dad?"	「恵まれない子どもたちを助けるためなんです」とチップが言いました。「パパのスポンサーになってもらえませんか？」
8	It was the day of the Fun Run. They all went to the park. "It's a long way to run," said Chip.	「楽しいマラソン大会」の日になりました。みんなで公園に行きました。「かなりの長距離を走るんだな」とチップが言いました。
9	"Go!" called a man and the Fun Run began. "Go on, Dad!" called Kipper.	「よ〜い、どん！」と男の人が叫んで、「楽しいマラソン大会」が始まりました。「行け行け、パパ！」とキッパーが言いました。
10	The Fun Run went around the park. "Ten times round the park," said Dad. "It's a long way to run."	「楽しいマラソン大会」は公園の周りを走ります。「公園 10 周か」とパパが言いました。「かなり長距離だな」
11	Dad ran well. He ran round the park four times. There was still a long way to go.	パパは調子よく走っていました。公園の周りを 4 周しました。でもまだまだ、先は長いのでした。
12	Oh no! Dad's foot went into a hole. Dad fell down. "Ouch!" said Dai. "My foot!"	大変！パパの足が穴にすっぽり入ってしまいました。パパは転んでしまいました。「痛っ！」とパパが言いました。「足が！」

13	A man looked at Dad's foot. "You must rest it," he said. "You can't run on it."	男の人が来て、パパの足を見ました。 「足を休ませなくては」とその人は言いました。「この状態では走れませんよ」
14	Dad couldn't finish the Fun Run. "What bad luck!" said Mum. "Poor old Dad!"	パパは「楽しいマラソン大会」を完走出来なくなりました。「運が悪いわね！」とママが言いました。「かわいそうなパパ！」
15	Dad was upset. "Oh no!" he said. "Now I can't help Children in Need."	パパはがっかり。 「あ〜あ！」とパパは言いました。「これじゃあ、恵まれない子どもたちを助けられないよ」
16	Wilf had an idea. "We can push you in the old pram," he said.	ウィルフにアイディアが浮かびました。 「僕たちが昔使ってたベビーカーに乗せて押してあげるよ」と言いました。
17	Wilf and his mum ran home. They got the old pram and ran back with it.	ウィルフはママといっしょに走って家に行きました。古いベビーカーを見つけ、それを押しながら走って戻って来ました。
18	"Come on, Dad" said Chip. "Get in the pram." "We will all push you," said Mum.	「パパ、来て！」とチップが言いました。「ベビーカーに乗って！」「皆で押すからね」とママが言いました。
19	Dad sat in the pram. They pushed him round the park.	パパはベビーカーに乗りました。皆でパパを押しながら公園の周りを回りました。
20	"Hooray!" everyone called. "It's not far now!"	「がんばれ〜！」と皆が叫びました。 「もうそう遠くはないぞ！」
21	"But it's a long way to push a pram," said Mum. "Keep going!" said Dad.	「けれど、ベビーカーを押すにはかなりの長距離ね」とママが言いました。 「その調子だ！」とパパが言いました。
22	It was the end of the run. The wheels came off the pram. Dad fell out.	マラソンのゴールに着きました。ベビーカーの車輪が取れてしまいました。パパは落ちてしまいました。
23	"What a way to end the run," said Dad. "But thank you for pushing me."	「すごいゴールの仕方だったな」とパパが言いました。「でも押してくれて、ありがとう」
24	"That was a fun run," said Kipper. "But it was a long way to push a dad!"	「本当に楽しいマラソンだったね」とキッパーが言いました。「でもパパを押して走るには長い道のりだったなあ！」

Drawing Adventure 「お絵かきアドベンチャー」 (368 語)

ウィルマとチップの描いた絵が、マジックアドベンチャーの世界で動き出して...

My Drawing Adventure

本文の一部を変えてオリジナルの物語を考えてみましょう。少しお話をはしょって、短くしてみます。イラストも子どもたち自身で描いて、My Drawing Adventure を完成させましょう。

(展開例)

__A__ (子どもの名前) had a lot of drawings.

(Aさんはたくさんの絵を持っていました)

They were all pictures of __B__. (人、動物、もの等)

(どれもこれも B の絵でした)

__C__ (子どもの名前) was painting a picture.

(Cさんは絵を描いていました)

He (She) was painting __D__. (人、動物、もの等)

(彼(彼女)は D の絵を描いていました)

The magic key began to glow.

(マジックキーが光り始めました)

The magic took them to __D__.

(魔法の力で彼らは D に連れて行かれました)

It looked like __C__'s painting.

(Cさんの(描いた)絵にそっくりでした)

Suddenly D began to E (動詞).

(突然 D が E を始めました)

"Come on! Run!" yelled A .

(「行こう！走って！」と A さんが叫びました)

"Help! Help!" C called.

(「助けて～！助けて～！」と C さんが叫びました)

 A had an idea

(A さんにアイデアが浮かびました)

He (She) began to draw F . (人、動物、もの等)

(彼(彼女)が F を描き始めました)

 A helped C .

(A さんは C さんを手伝いました)

The magic key began to glow.

(マジックキーが光り始めました)

"What an adventure!" they said.

(「すごい冒険だったね！」と二人は言いました)

(教室作品例)

Yota had a lot of drawings.

They were all pictures of beetles.

Yuto was painting a picture.

He was painting a storm.

The magic key began to glow.

The magic took them in a storm.

It looked like Yuto's painting.

Suddenly rain began to fall.



"Come on! Run!" yelled Yota.

"Help! Help!" Yuto called.

Yota had an idea.

He began to draw a big umbrella.

Yota helped Yuto.

The magic key began to glow.

"What an adventure!" they said.



【訳】

	Drawing Adventure	お絵かきアドベンチャー
1	Wilma had a lot of drawings. They were all pictures of girls.	ウィルマはたくさんの絵を持っていました。 どれもこれも女の子の絵でした。
2	"I like drawing clothes," Wilma said. Biff looked at Wilma's pictures. "They are good," she said.	「洋服を描くのが好きなの」とウィルマが言 いました。ビフはウィルマの絵を見ました。 「どれも上手ね」と言いました。
3	Chip was painting a picture. He was painting a volcano.	チップは絵を描いていました。 火山の絵を描いていました。
4	Wilma moved her leg. She kicked Chip's water over. "Whoops!" said Wilma. "Sorry."	ウィルマが足を動かしました。そしてチップの 絵の具の水を倒してしまいました。「おっ と！」とウィルマが言いました。「ごめん」
5	The water ran over Chip's picture. Chip was cross. "My picture is a mess now!" he said.	水がチップの絵にかかってしまいました。 チップは怒りました。 「僕の絵がぐちゃぐちゃになっちゃったじゃな いか！」と言いました。
6	Chip flicked paint over Wilma's picture. "Your drawings are silly," he said. Biff told Chip to say sorry.	チップは絵の具をウィルマの絵に引っかけま した。 「おまえの絵なんかくだらない」と言いました。 ビフはチップに謝るように言いました。
7	Chip was too cross to say sorry. He flicked paint at Wilma. Then the key began to glow.	チップはものすごく怒っていたので、謝ろうと はしませんでした。チップはウィルマに絵の具 を振りかけました。その時、マジックキーが光 り始めました。
8	The magic took them to a volcano. It looked like Chip's painting. But where was Chip?	魔法の力で彼らは火山に連れて行かれまし た。チップの絵にそっくりでした。 でも、チップはどこにいるのでしょうか？
9	"Look at those girls," gasped Wilma. "They look like the ones in my drawings." Look at their clothes."	「見て、あの女の子たち」ウィルマがハッと して言いました。「私の絵にそっくり。あの洋服 を見てよ」
10	The girls called to Wilma. "Do you like my top?" said a girl. "Do you like my boots?"	女の子たちはウィルマに呼びかけました。 「私のシャツ、気に入った？」と一人が言いま した。「ブーツはどう？」

11	Suddenly, the volcano began to spit out blobs of red paint. Splat! A big blob landed by Biff.	突然、火山から赤い絵の具の滴が降ってきました。パシャ！大きな水滴がビフのすぐそばに落ちました。
12	"Come on! Run!" yelled Biff. "Run! Or the volcano will get us." "I can't run in these boots," said a girl.	「行こう！さあ、走って！」とビフが叫びました。「でないと火山の噴火に巻き込まれちゃう」「このブーツじゃ、走れないわ」と女の子が言いました。
13	"Run!" yelled Wilma. "We can't," said a girl. "I can't run in this dress!"	「走るの！」とウィルマが叫びました。「無理よ！」もう一人の女の子が言いました。「このドレスじゃ、走れない！」
14	Splat! Red blobs landed everywhere. "It's red paint!" said Biff. Splat! A red blob hit a girl.	パシャ！赤い水滴があちこちに落ちて来ました。「赤い絵の具だ！」とビフが言いました。パシャ！赤い絵の具の滴が女の子に当たりました。
15	Red paint began to gush out of the volcano. It looked like a big, red river.	赤い絵の具が火山から噴出して来ました。まるで大きな赤い川のようにです。
16	Wilma had an idea. She began to draw jeans and tops. Biff helped her.	ウィルマにアイディアが浮かびました。ジーンズとシャツを描き始めました。ビフも手伝いました。
17	"Quick! Put these on," said Wilma. "Oh! We like these," said the girls.	「急いで！これを着て」とウィルマが言いました。「まあ！気に入ったわ」と女の子たちが言いました。
18	"Now run!" called Wilma. They all ran.	「さあ、走るのよ！」とウィルマが叫びました。全員で走りました。
19	Chip was in the paint river. "Help! Help!" he called. "Get me out!"	チップは絵の具の川の中にいました。「助けて～！助けて～！」と叫びました。「ここから出して！」
20	Biff and Wilma saw Chip. "Stop!" they called. "We must get him out."	ビフとウィルマはチップの姿を見ました。「止まって！」と二人は叫びました。「なんとかして、出してあげなくちゃ」
21	"Wilma had an idea. She drew a long rope. "Hold on, Chip," she called.	ウィルマにアイディアが浮かびました。ウィルマは長いロープの絵を描きました。「しっかりつかんで、チップ！」とウィルマが叫びました。

22	They pulled Chip out. “I’m glad this is only paint and not a real volcano,” said Biff.	二人はロープを引っ張って、チップを助け出しました。「これが火山じゃなく、ただの絵の具で、ほんとに良かった」とビフが言いました。
23	“Phew!” said Chip. “Am I glad you pulled me out!” The magic key began to glow.	「ふう！」とチップが言いました。「引っ張り出してくれてよかったよ」 マジックキーが光り始めました。
24	“Now are you sorry, Chip?” said Biff. Chip had a blob of paint on him. “I am,” he said. “Sorry!”	「これで反省したでしょうね、チップ？」とビフが言いました。チップの服には絵の具の水 droplet がついていました。 「もちろんだよ」とチップは言いました。「ごめんね！」

著者 原田 真理子

児童英語教室・英語多読教室 Sunny Day English Park 主宰
藤沢オリーブチャペル「オリーブキッズ英語教室」講師